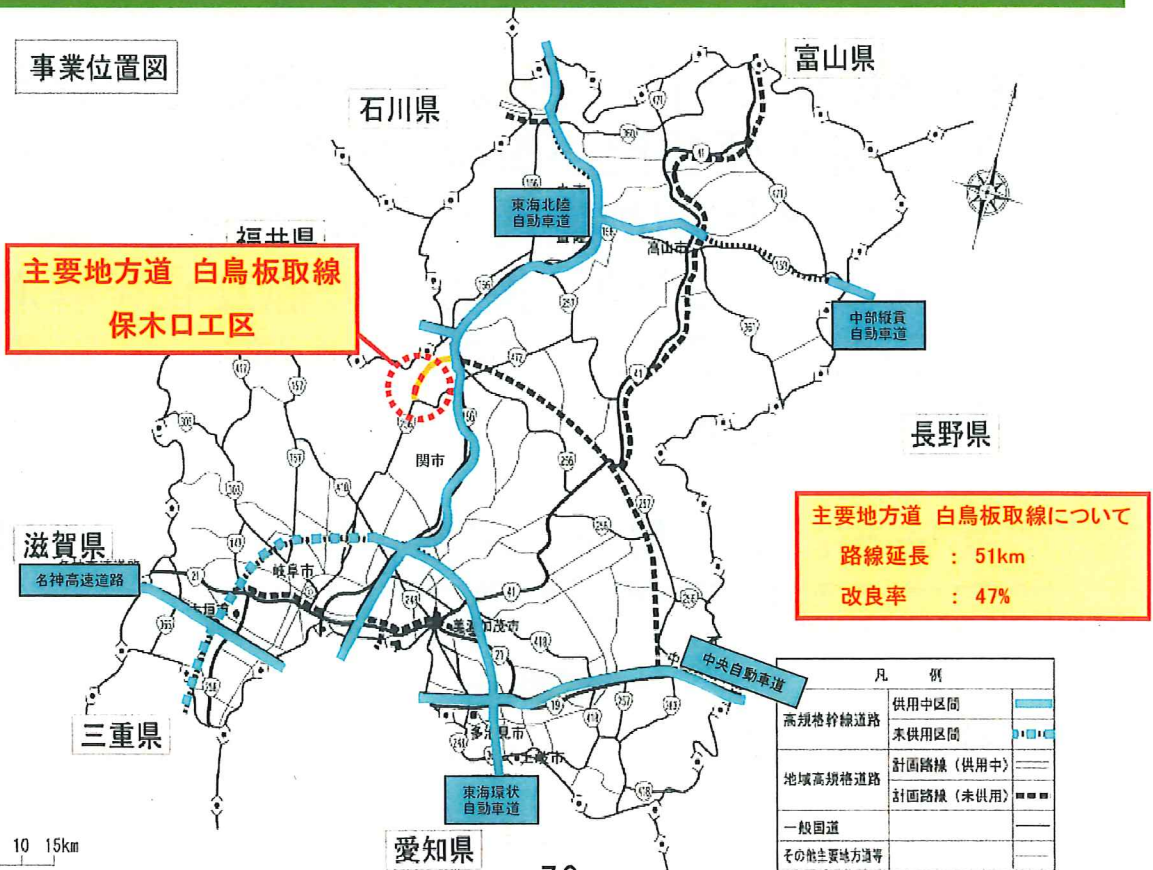


事業再評価 道路改築事業

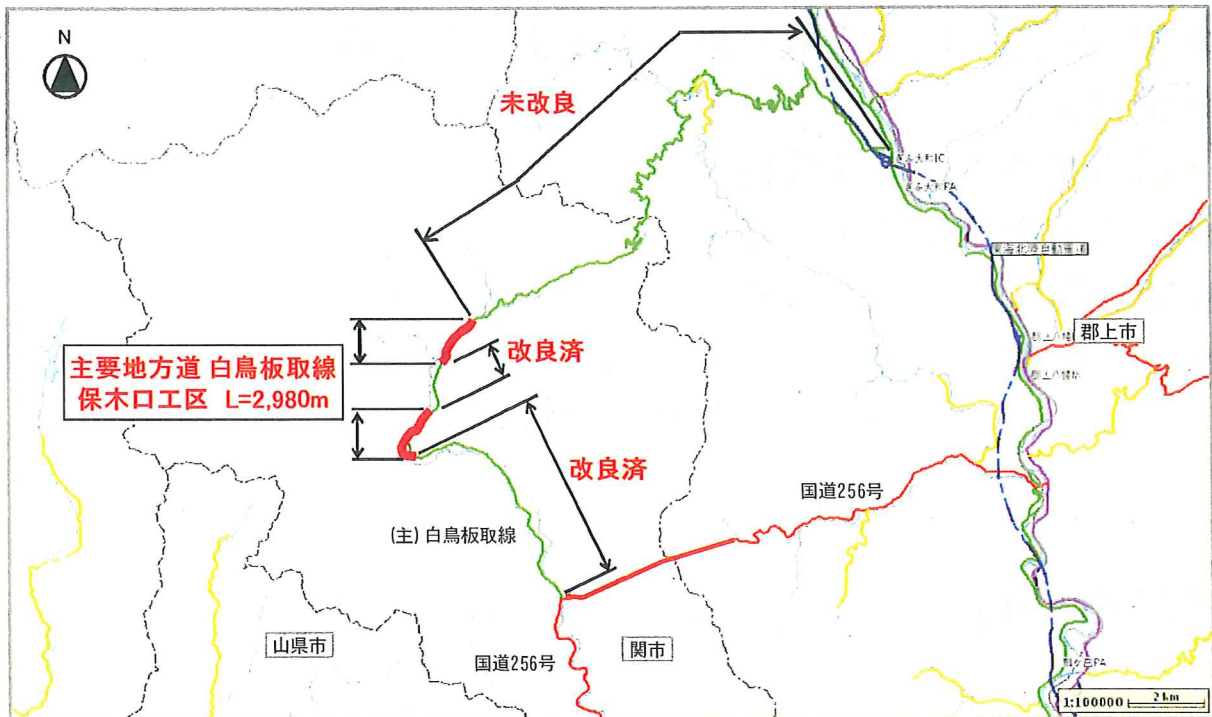
主要地方道 白鳥板取線 保木口工区

県土整備部道路建設課
平成23年11月

位置図 ①

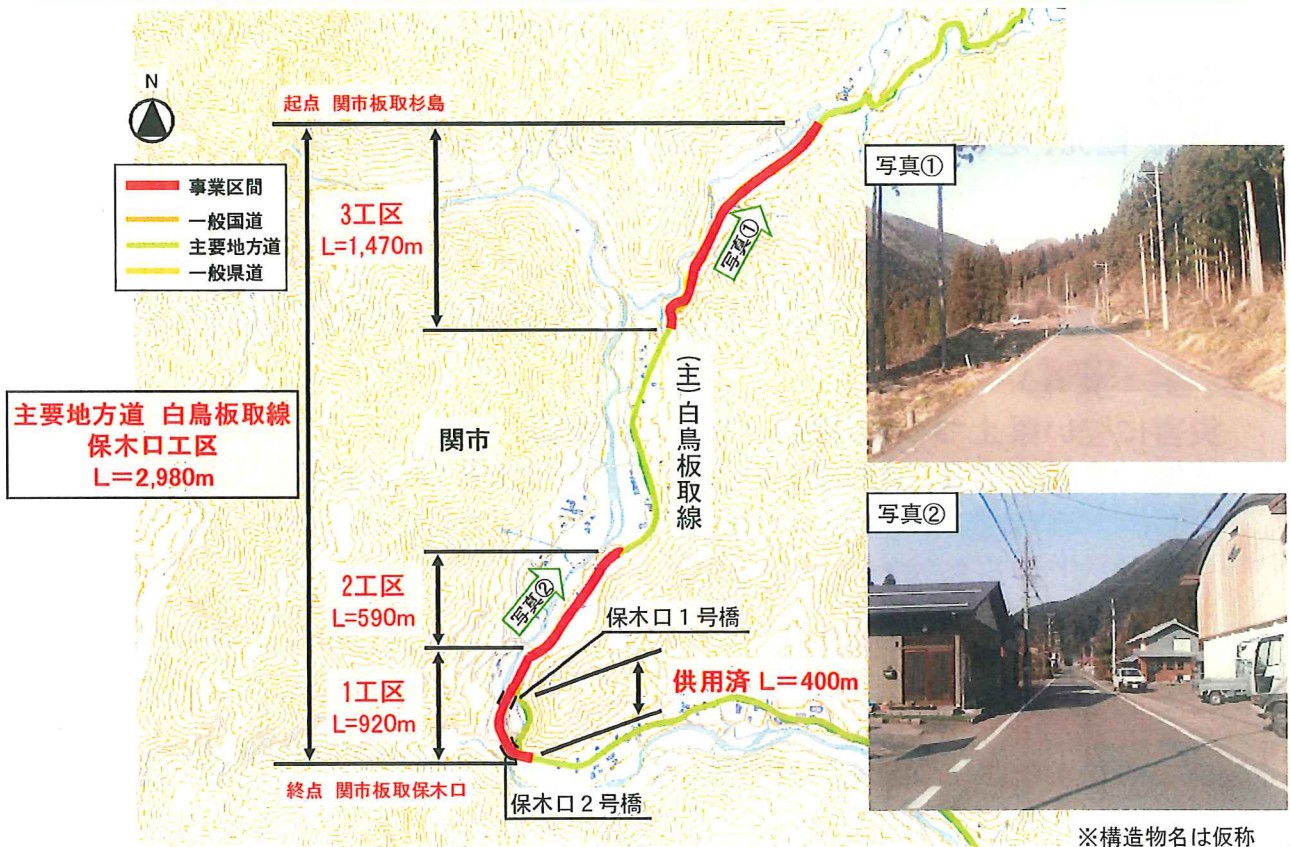


位置図②



2

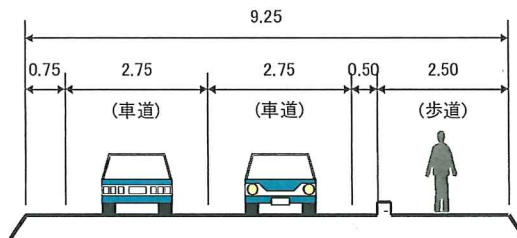
位置図③



事業概要

- ◆起終点：せきし いたどり すぎしま 関市板取杉島～せきし いたどり ほきぐち 関市板取保木口
- ◆全体延長：2,980m
- ◆総事業費：約24億円
- ◆事業着手：平成12年度
- ◆完成予定：平成26年度
- ◆幅員：車道 2.75m×2車線
歩道 2.50m (片側)

標準横断図



4

事業の目的

活力

物流・観光、地域経済の持続的発展の基礎となる道路整備

観光交流や産業振興の推進

安全・安心

災害に強い県土づくりの根幹となる道路整備

地域の生活を支え、人に優しい安全で快適なまちづくりを支える道路整備

災害により集落が孤立化することを解消

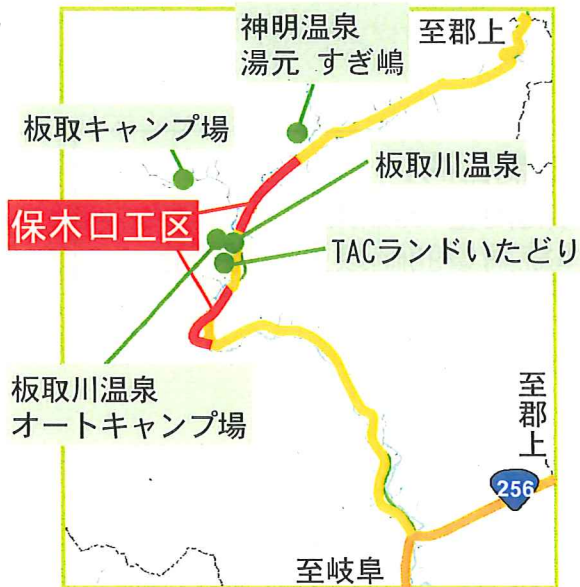
雨量規制区間の解消

隘路の解消による円滑な交通の確保

事業の目的①

◆観光交流や産業振興の推進

■保木口工区の整備により、板取川温泉、TACランドいたどりなど沿線の観光・レジャー施設へのアクセスが向上し、観光客の増加や関連産業の活性化が期待できる



■年間観光入込客数【※1】

板取川温泉 : 13.8万人
TACランドいたどり : 1.1万人

【※1】岐阜県観光レクリエーション動態調査(H22)



板取川温泉



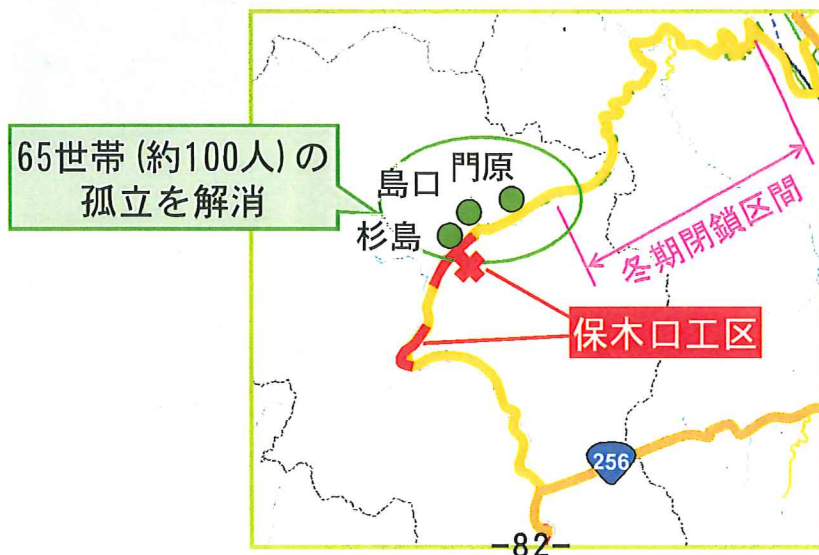
TACランドいたどり

6

事業の目的②

◆災害により集落が孤立化することを解消

- 当該区間は、幅員狭小のため、わずかな土砂崩壊等で通行が不能となった場合、迂回路がなく集落が孤立
- 保木口工区の幅員増により、土砂崩壊等の際の早期復旧が可能となり、集落の孤立化を解消

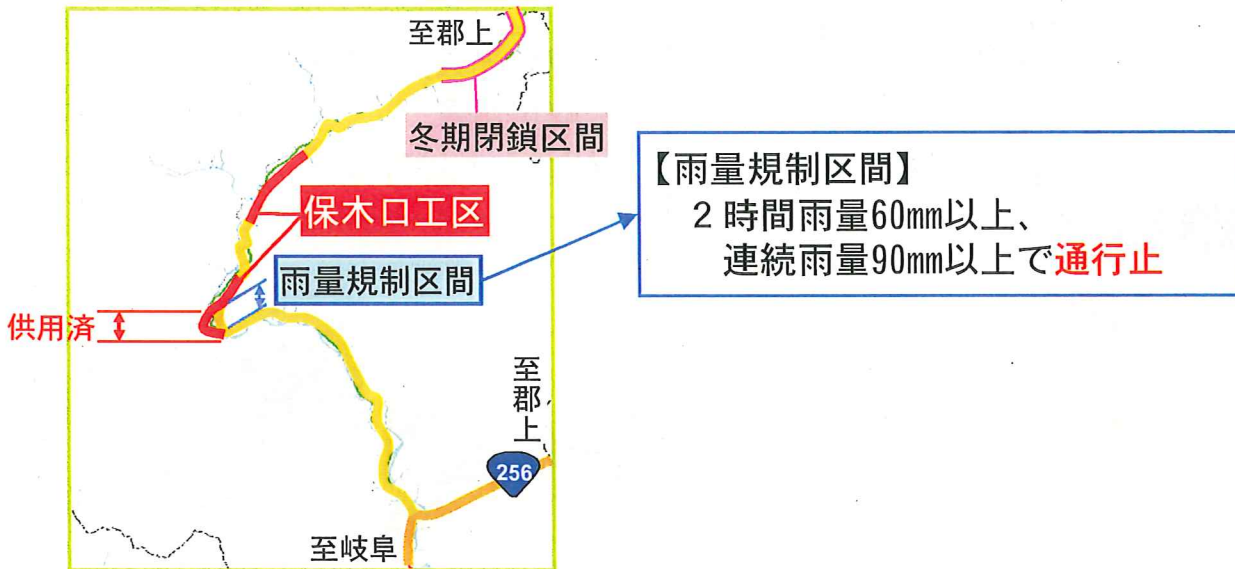


7

事業の目的③

◆雨量規制区間の解消

- 保木口工区の整備により雨量規制区間が解消され、常時通行可能となり通行規制による迂回を解消



8

事業の目的④

◆隘路の解消による円滑な交通の確保

- 幅員狭小区間の解消により、走行性・安全性が向上
- 集落部における歩行者等の安全確保



現道状況



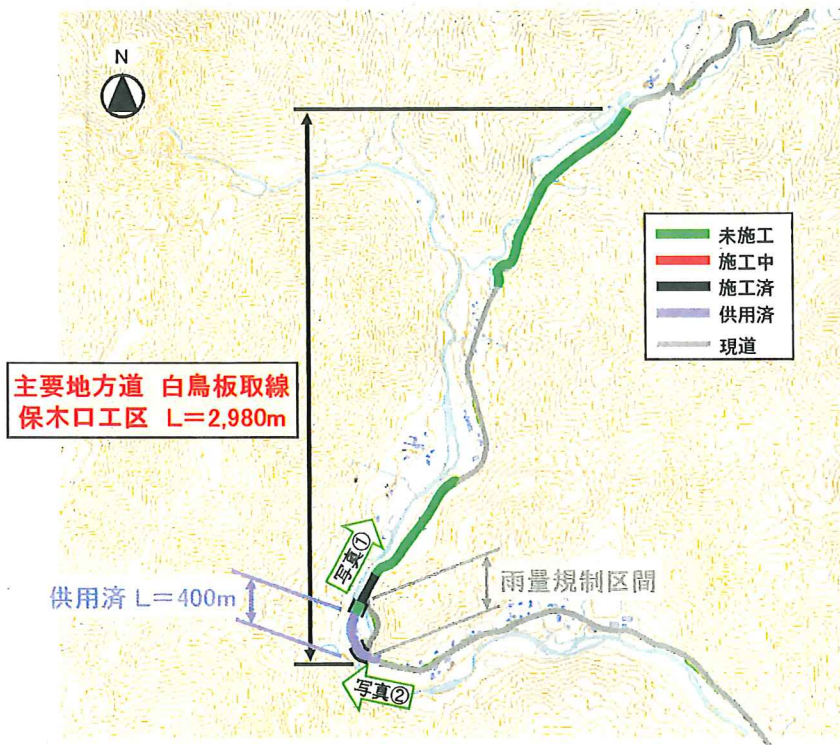
進捗状況

全体進捗率 68%*

用地補償進捗率 88%*

工事進捗率 62%*

※平成22年度末事業費ベース



10

費用対効果分析

事業の効果

- 走行時間短縮便益 効果全体の約 89%
- 走行経費減少便益 効果全体の約 11%
- 交通事故減少便益 効果全体の約 0%

投資的效果率

$$\frac{\text{総便益 (B)}}{\text{総費用 (C)}} = \frac{1.1 \text{ (全体)}}{5.2 \text{ (残事業)}}$$

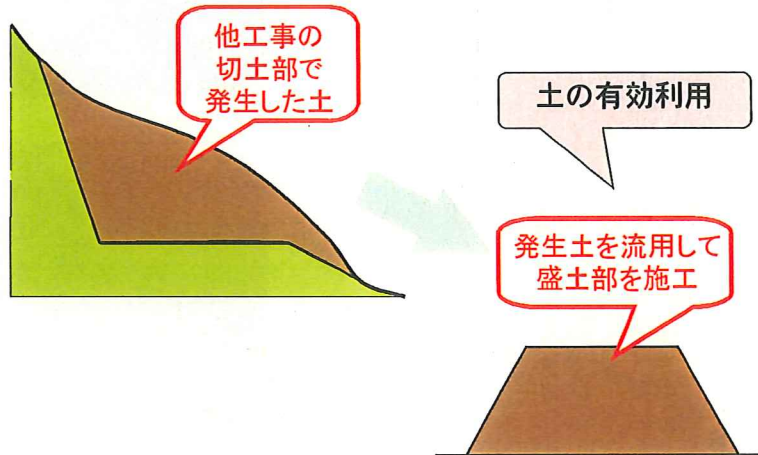
※費用便益分析マニュアル（国土交通省H20.11）に基づき算出

コスト削減の取り組み

◆盛土材の有効利用

- 他工事で発生した切土による発生土(約2.2万 m^3)を事業区間内の盛土部に有効活用する

約0.4億円のコスト削減



12

自然環境への配慮

◆絶滅危惧種の移植

- 事前に生物調査を実施し、環境省準絶滅危惧および岐阜県絶滅危惧Ⅰ類に指定されているサクラソウを確認した
- 有識者の助言を受けながら移植する(H24年度予定)

サクラソウの自生状況



今後の方針

○(主)白鳥板取線 保木口工区の完成は、安全で円滑な交通を確保し、当地域の発展に大きく寄与する。

○地元住民および関係市町から事業の継続、早期完成の強い要望がある。



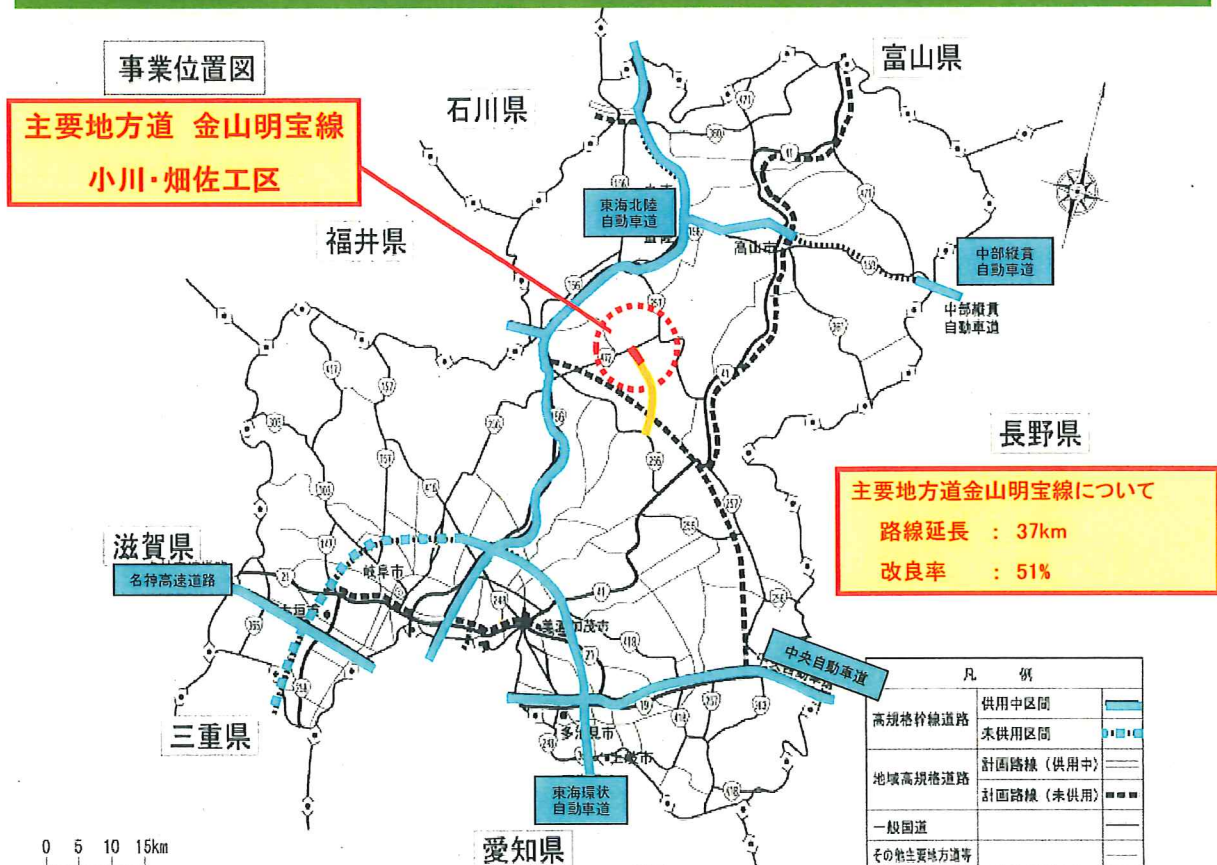
＝供用に向け、事業継続＝

事業再評価 道路改築事業

主要地方道 金山明宝線 小川・畑佐工区

県土整備部道路建設課
平成23年11月

位置図 ①

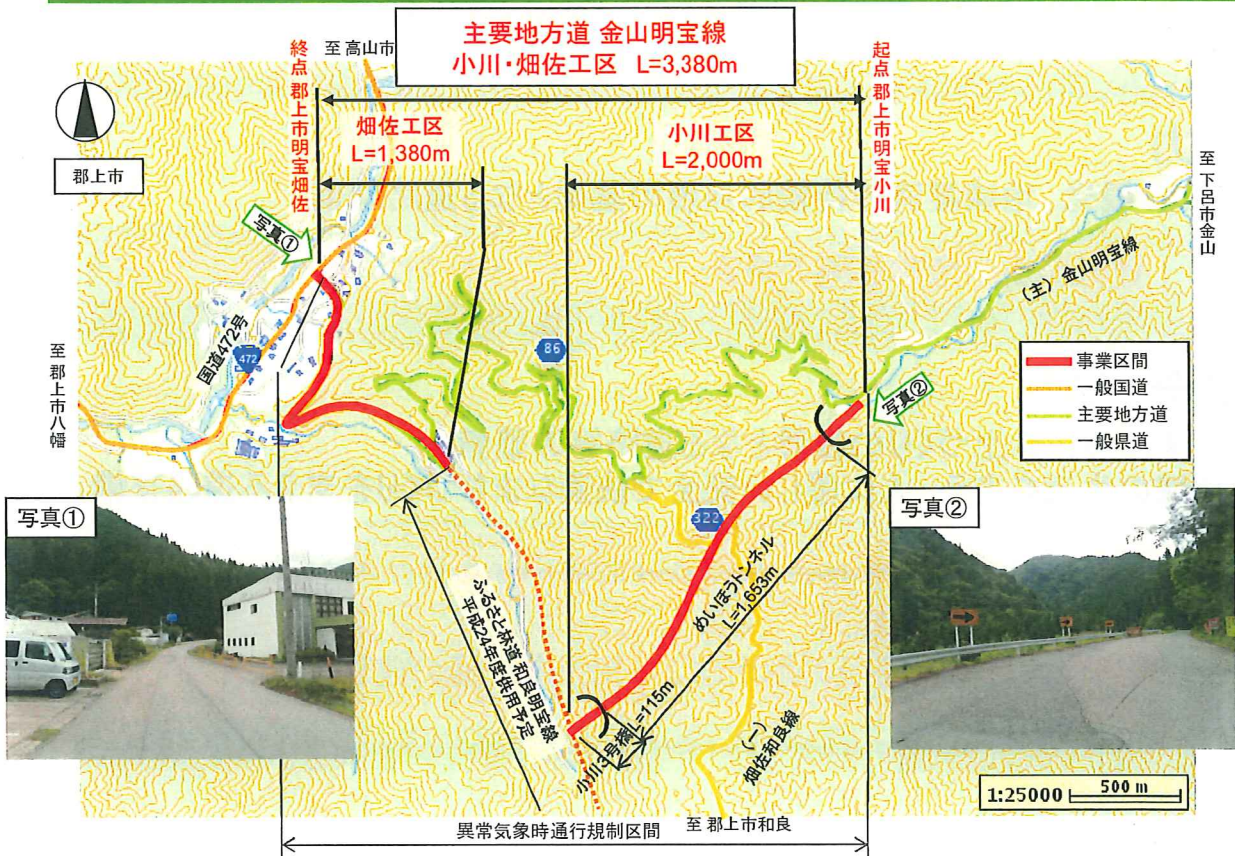


位置図②



2

位置図③



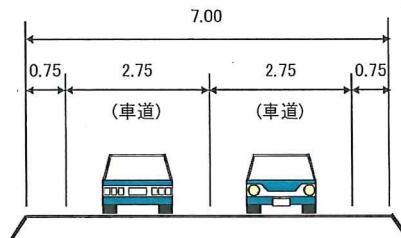
3

事業概要

ぐじょうし めいほうおがわ ぐじょうし めいほうはたさ

- ◆起 終 点：郡上市明宝小川～郡上市明宝畑佐
- ◆全体延長：3, 380 m
- ◆総事業費：約67億円
- ◆事業着手：平成12年度
- ◆完成予定：平成27年度以降
- ◆幅 員：車道 2.75 m×2車線

標準横断図



4

事業の目的

活力

物流・観光、地域経済の持続的発展の基礎となる道路整備

観光交流や産業振興の推進

安全・安心

災害に強い県土づくりの根幹となる道路等の整備

地域の生活を支え、人に優しい安全で快適なまちづくりを支える道路整備

災害時に有効に機能するネットワークの確保
雨量規制区間の解消
隘路・線形不良箇所による円滑な交通の確保

5

事業の目的①

◆観光交流や産業振興の推進

- 小川・畑佐工区の整備により、小川の大滝、小川きのりコテージなど沿線の観光・レジャー施設へのアクセスが向上し、観光客の増加や関連産業の活性化が期待できる



小川の大滝



小川きのりコテージ

6

事業の目的②

◆災害時に有効に機能するネットワークの確保

- 金山明宝線の当該区間は第3次緊急輸送道路に指定
- 当該区間は、小川地区の中心と郡上市中心部を接続する経路



- 災害時の緊急活動を支援する道路として小川・畑佐工区を整備



7

事業の目的③

◆雨量規制区間の解消

- 1年に7回以上の割合*で異常気象等による通行止が発生
- 小川・畑佐工区の整備により**常時通行可能**となり、通行止の不安が解消
- 下呂市側の金山明宝線通行止時には、代替路としても機能



※平成21年～23年の平均

【異常気象時通行規制区間】
時間雨量90mm以上、
2時間雨量60mm以上で**通行止**

金山明宝線の通行規制状況

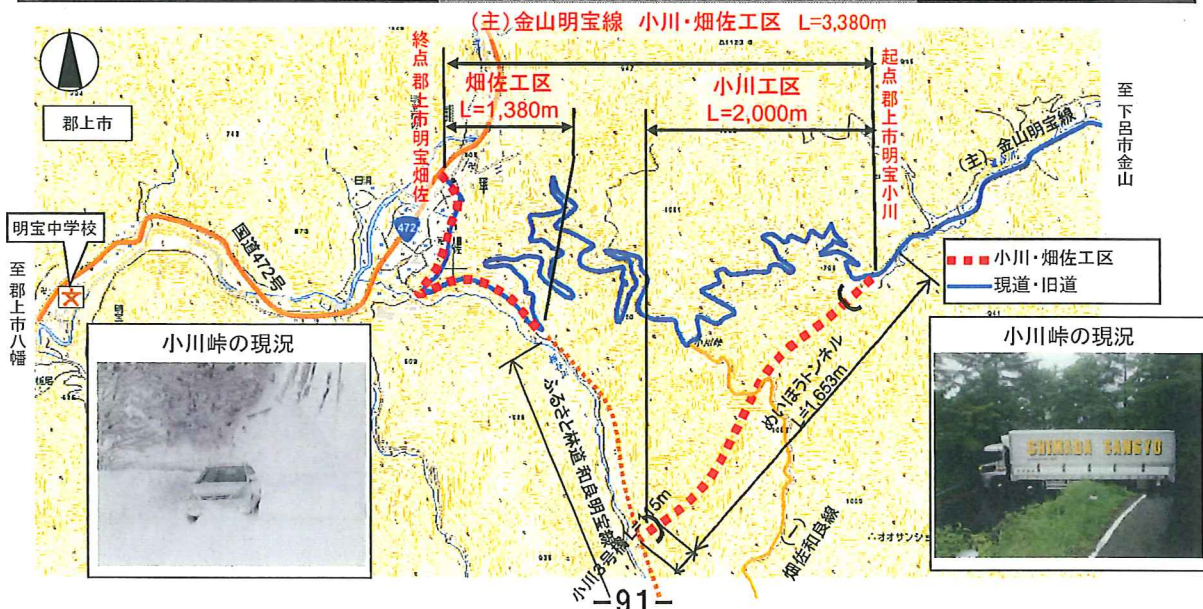


8

事業の目的④

◆隘路・線形不良箇所の解消による円滑な交通の確保

- 小川峠区間は線形不良・幅員狭小・急勾配区間が多く、危険
- 中学校へのスクールバスによる通学路として日常的に利用
- 小川・畑佐工区の供用により、快適な生活環境と産業活動を支援



9

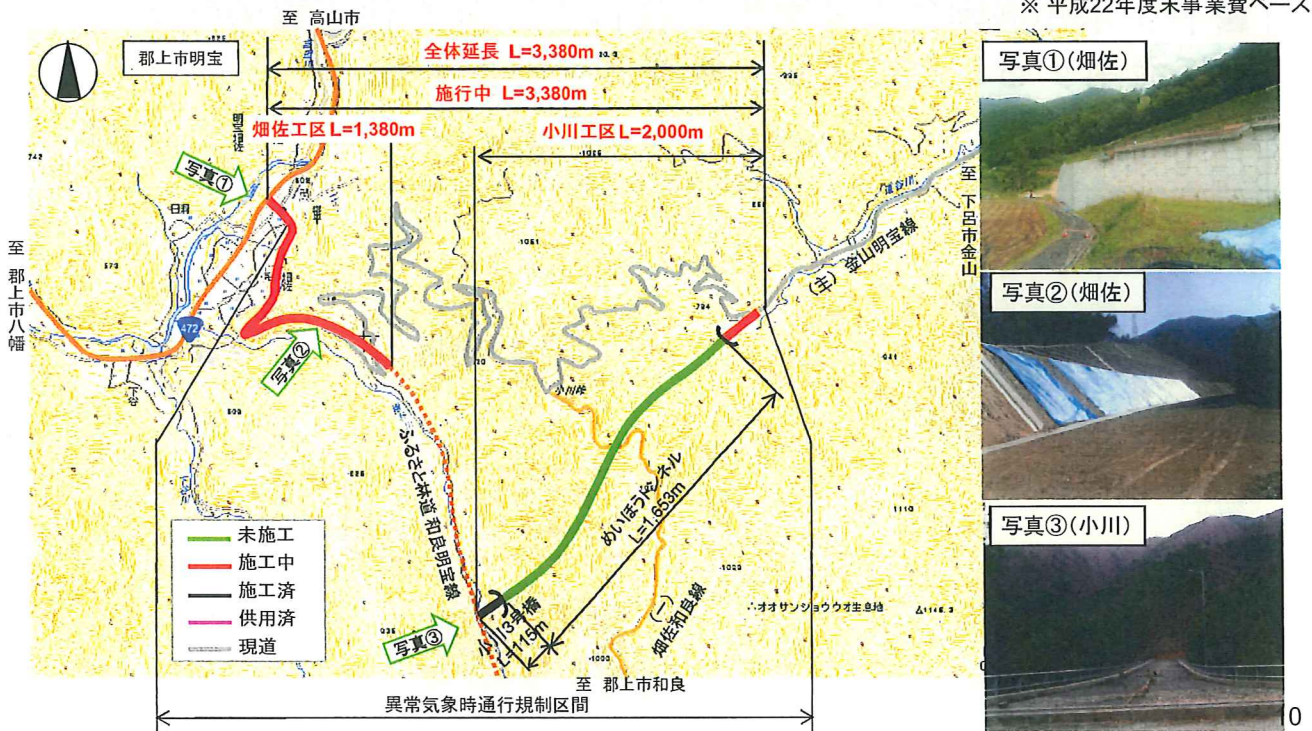
進捗状況

全体進捗率 26% ※

用地補償取得率 100% ※

工事進捗率 14% ※

※平成22年度末事業費ベース



費用対効果分析

事業の効果

- 走行時間短縮便益 効果全体の約 86%
- 走行経費減少便益 効果全体の約 13%
- 交通事故減少便益 効果全体の約 1%

投資的效果率

$$\frac{\text{総便益 (B)}}{\text{総費用 (C)}} = \frac{1.1 \text{ (全体)}}{1.6 \text{ (残事業)}}$$

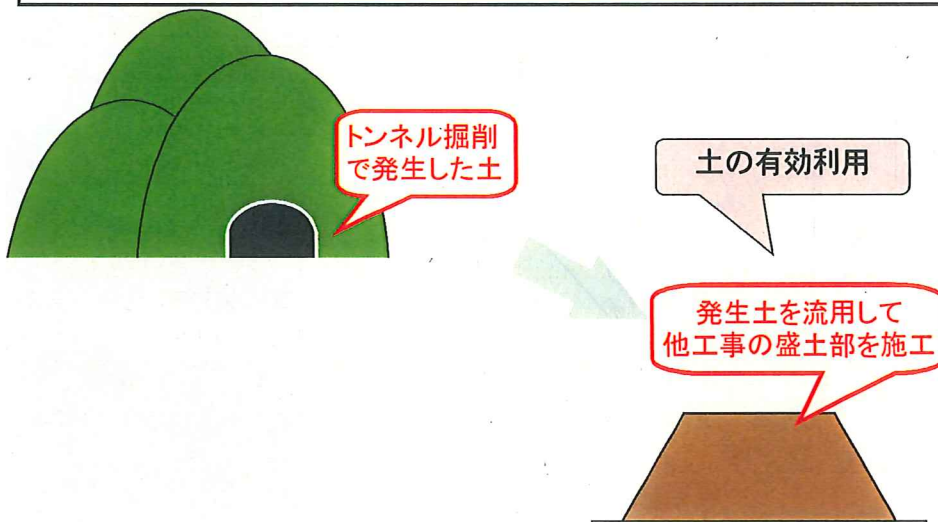
※費用便益分析マニュアル（国土交通省H20.11）に基づき算出

コスト削減の取り組み

◆盛土材の有効利用

- トンネル掘削による発生土(約6.5万 m^3)を他工事の盛土に流用することにより、処理費を削減する

約0.9億円のコスト削減



12

自然環境への配慮

◆施工法面の緑地回復

- 畑佐工区に発生した切土法面において、在来種による緑化を行うことで緑地の回復を図った



法面緑化断面

13

今後の方針

○主要地方道金山明宝線小川・畑佐工区の完成は、安全で円滑な住民の生活を確保し、郡上市明宝小川地域の発展に大きく寄与する。

○地元住民および関係自治体から事業の継続、早期完成の強い要望がある。



＝供用に向け、事業継続＝

事業概要説明
道路改築事業

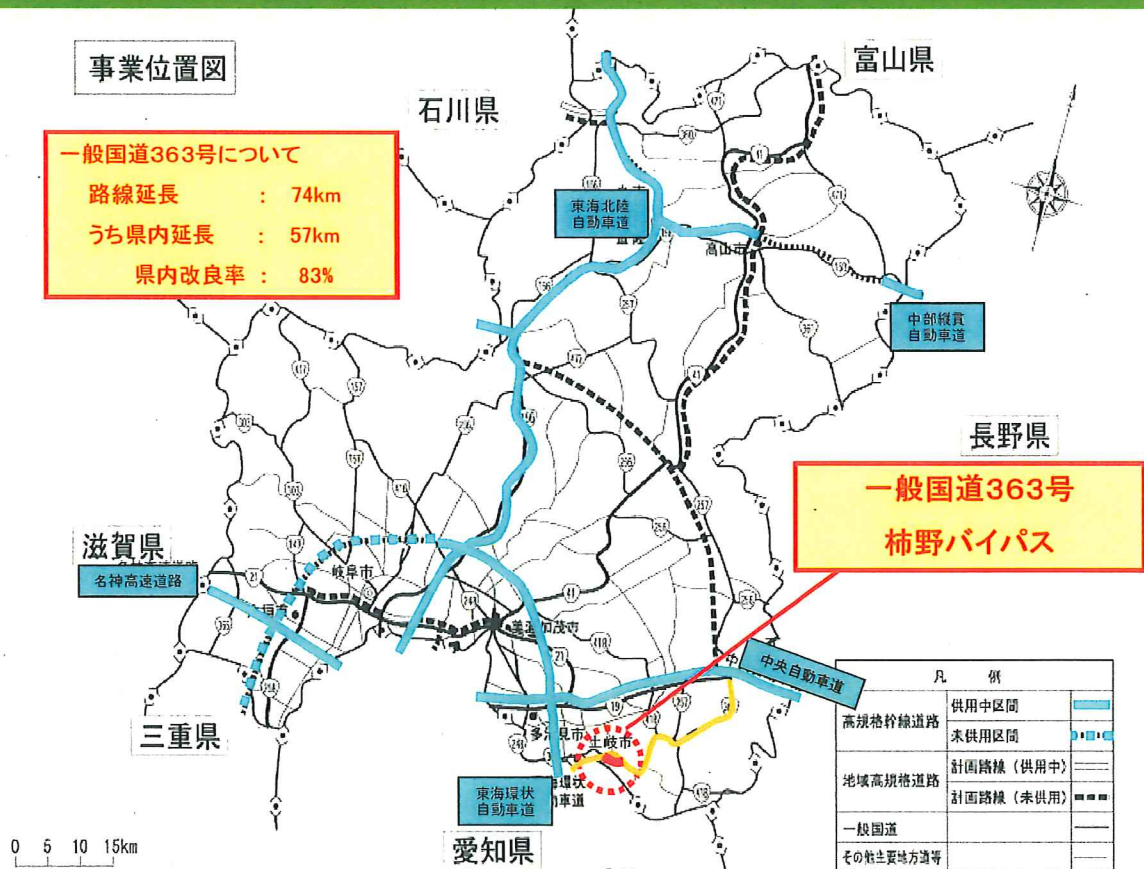
一般国道363号
柿野バイパス

国土整備部道路建設課
平成23年11月

位置図 ①

事業位置図

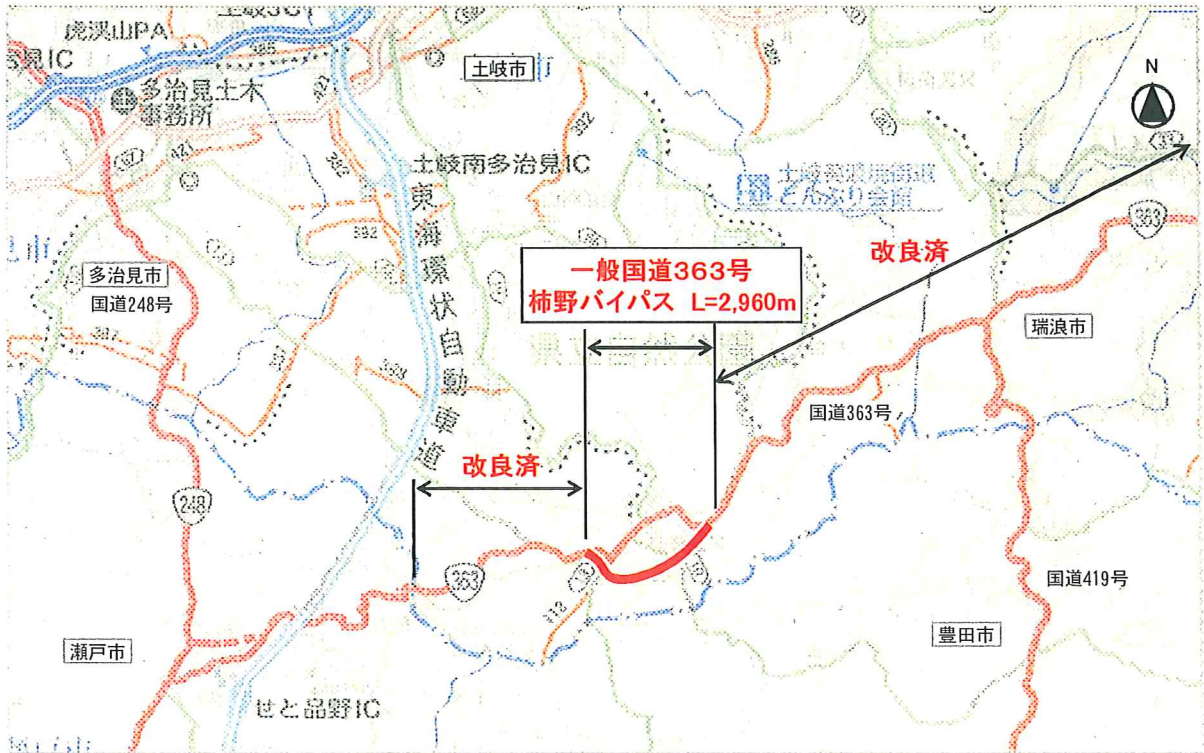
一般国道363号について
路線延長 : 74km
うち県内延長 : 57km
県内改良率 : 83%



長野県
一般国道363号
柿野バイパス

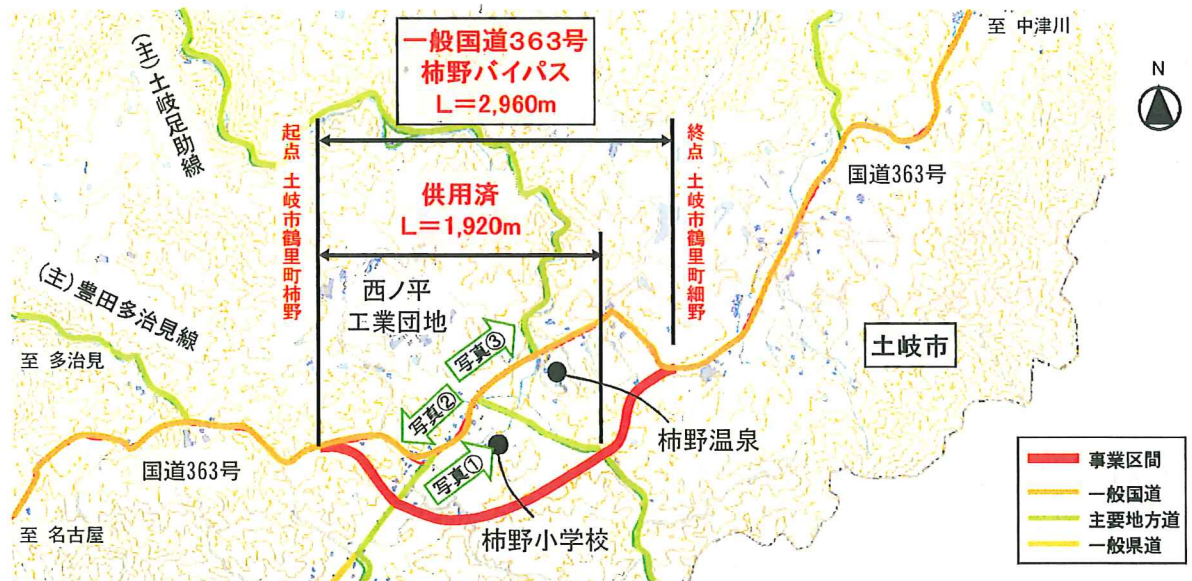
凡 例	
高規格幹線道路	供用中区間
	未供用区間
地域高規格道路	計画路線 (供用中)
	計画路線 (未供用)
一般国道	
その他主要地方道等	

位置図②



2

位置図③



写真①(現道通行状況)



写真②(小学校通学路)



写真③(狭小区間)

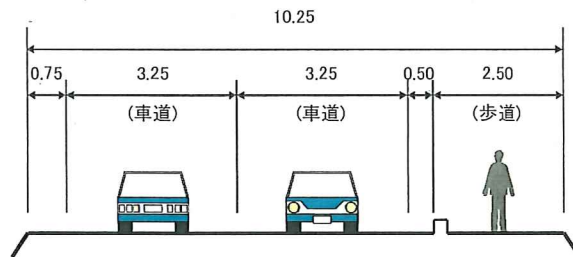


3

事業概要

- ◆起終点：土岐市鶴里町柿野ときしつるさとちょうかきの～土岐市鶴里町細野ときしつるさとちょうほその
- ◆全体延長：2,960m
- ◆総事業費：約33億円
- ◆事業着手：平成7年度
- ◆完成予定：平成26年度
- ◆幅員：車道 3.25m×2車線
：歩道 2.50m (片側)

標準横断面図



4

事業の目的

活力

物流・観光、地域経済の持続的発展の基礎となる道路整備

県土1700km骨格幹線ネットワーク構想の推進

地域間の観光交流や産業振興の推進

安全・安心

災害に強い県土づくりの根幹となる道路整備

地域の生活を支え、人に優しい安全で快適なまちづくりを支える道路整備

災害時に有効に機能するネットワークの確保

安全で快適な歩行空間の確保

事業の目的①

◆地域間の観光交流や産業振興の推進

- 柿野バイパスの整備により、多治見市や名古屋市・せと品野ICからバーデンパークSOGIなどの土岐市南部の観光・レジャー施設へのアクセスが向上し、観光客の増加が期待できる
- 土岐市南部に立地する工場からせと品野ICへのアクセスが向上し、地域産業の活性化が期待できる



せと品野IC

新陽カントリー倶楽部

- 観光・レジャー施設
- 工場

■年間観光入込客数【※1】

バーデンパークSOGI : 28.0万人
 新陽カントリー倶楽部 : 5.8万人
 曾木公園 (もみじライトアップ) : 3.2万人

【※1】岐阜県観光レクリエーション動態調査(H22)



バーデンパークSOGI

6

事業の目的②

◆災害時に有効に機能するネットワークの確保

- 国道363号は第2次緊急輸送道路に指定
- 当該区間は、せと品野ICと東濃地域南部の都市間を接続する経路



- 災害時の緊急活動を支援する道路として柿野バイパスを整備



事業の目的③

◆安全で快適な歩行空間の確保

- 幅員狭小区間に通過交通と生活交通が混在
- 柿野バイパスの整備により、通過交通が転換し、現道における歩行者等の安全性が向上



8

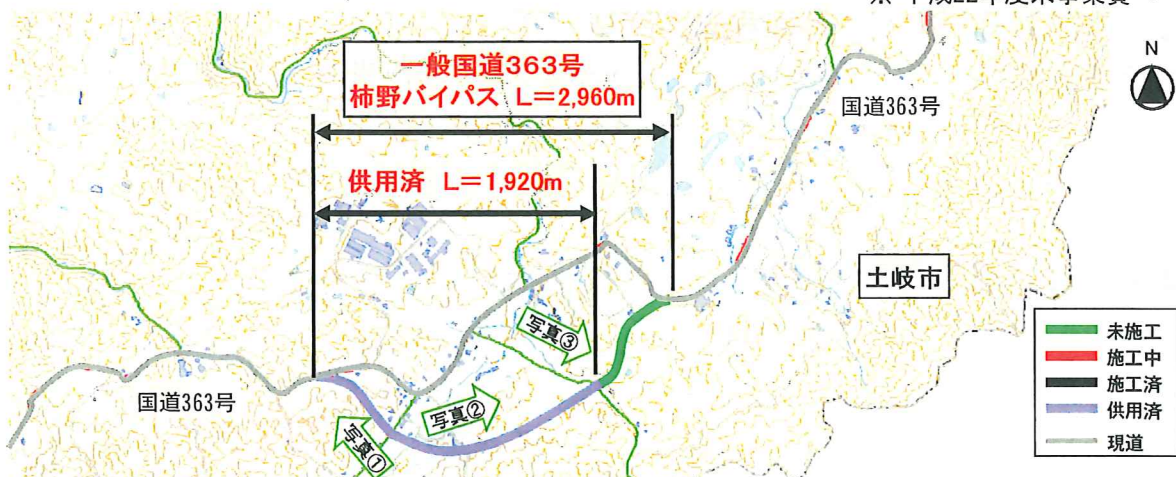
進捗状況

全体進捗率 63%※

用地補償進捗率 80%※

工事進捗率 58%※

※平成22年度末事業費ベース



9

費用対効果分析

事業の効果

- 走行時間短縮便益 …… 効果全体の約 81%
- 走行経費減少便益 …… 効果全体の約 18%
- 交通事故減少便益 …… 効果全体の約 1%

投資的効果率

$$\frac{\text{総便益 (B)}}{\text{総費用 (C)}} = \begin{matrix} 1.1 \text{ (全体)} \\ 2.0 \text{ (残事業)} \end{matrix}$$

前回再評価時
(H16年度)

1.9 (全体)

3.5 (残事業)

※費用便益分析マニュアル（国土交通省H20.11）に基づき算出

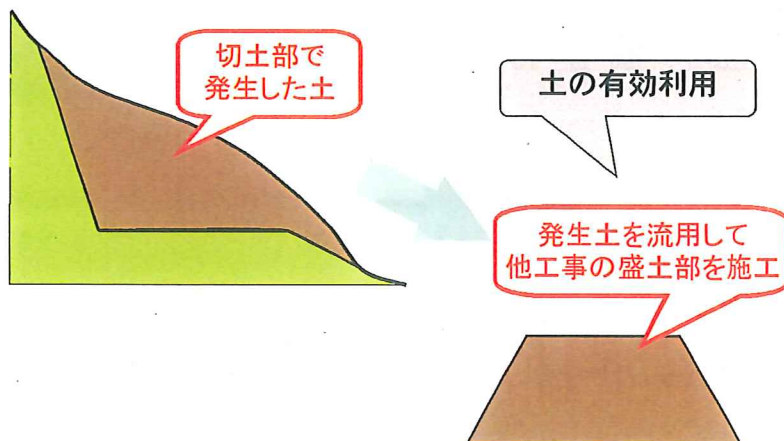
10

コスト縮減の取り組み

◆盛土材の有効利用

- 切土による発生土 (約15万m³) を他工事の盛土に流用することにより、処理費を削減する

約2.7億円のコスト縮減



自然環境への配慮

◆環境に配慮したルートを選定

- 土岐市天然記念物(湿地)を避けたルートを選定した
- 事前の動物調査・植物調査の結果に基づき、絶滅危惧種への影響が低いルートを選定した

生息が確認された絶滅危惧種



シデコブシ
環境省準絶滅危惧
岐阜県絶滅危惧Ⅱ類



サクラバハンノキ
環境省準絶滅危惧
岐阜県準絶滅危惧



ギフチョウ
環境省絶滅危惧Ⅱ類
岐阜県準絶滅危惧

12

今後の方針

○柿野バイパスの完成は、安全で円滑な交通を確保し、当地域の発展に大きく寄与する。

○地元住民および関係市町から事業の継続、早期完成の強い要望がある。



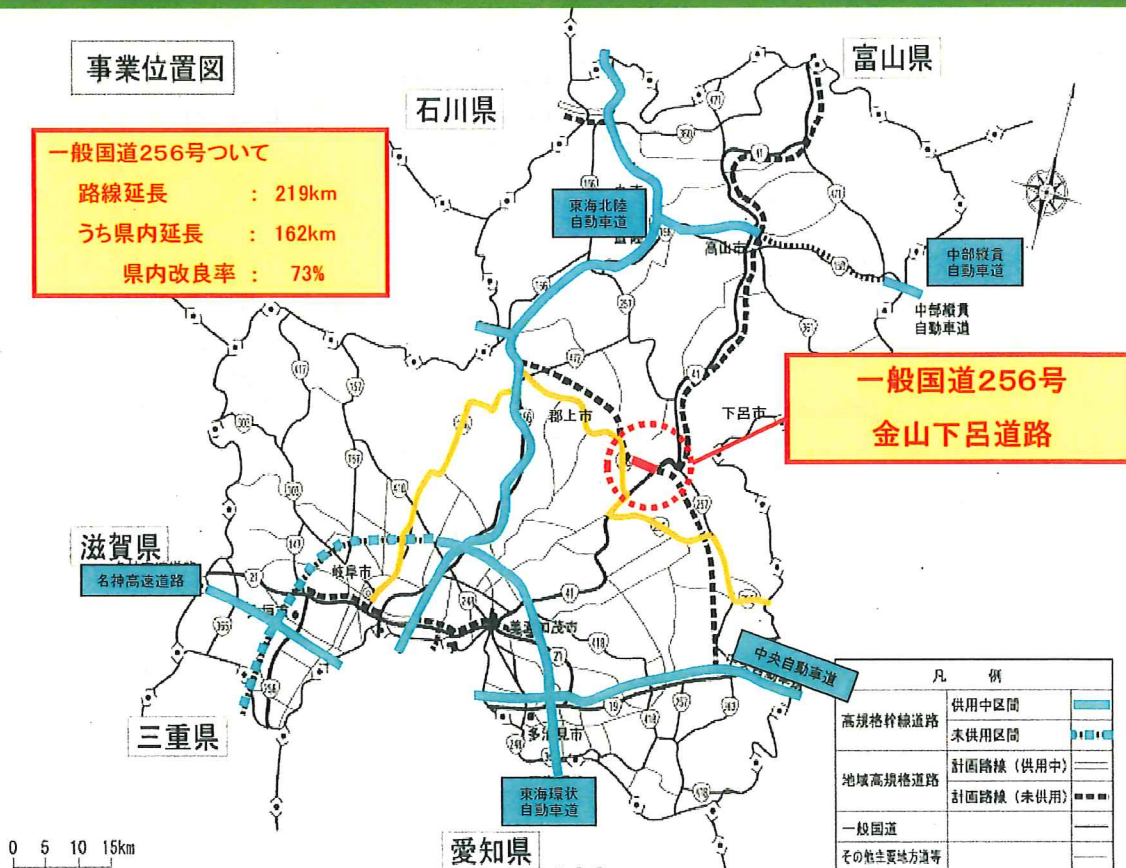
＝供用に向け、事業継続＝

事業再々評価 道路改築事業

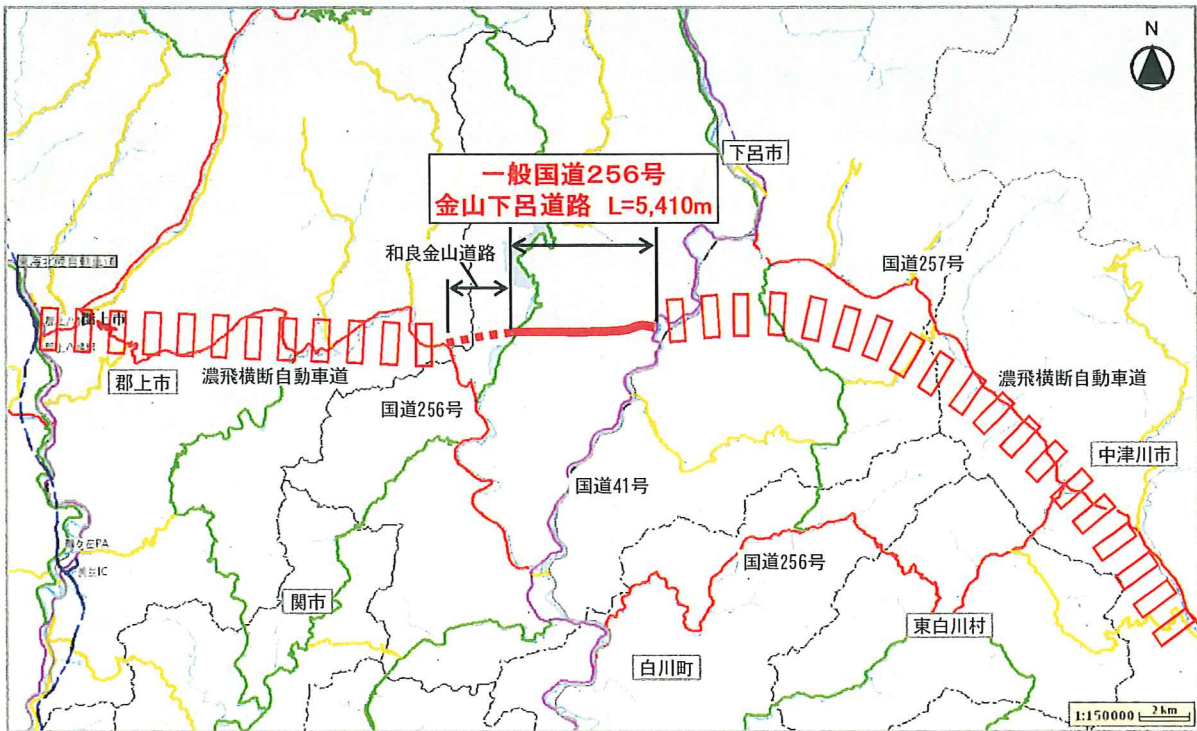
一般国道256号 金山下呂道路

県土整備部道路建設課
平成23年11月

位置図①

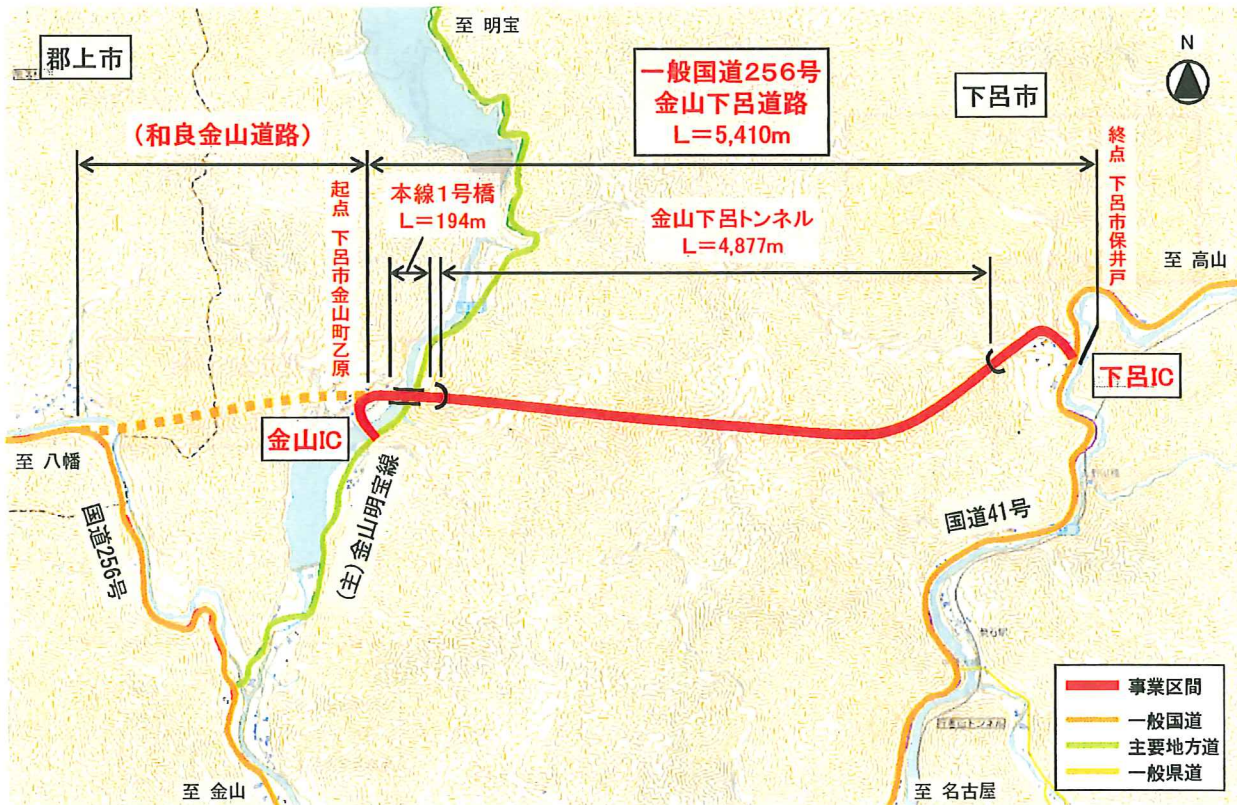


位置図②



2

位置図③

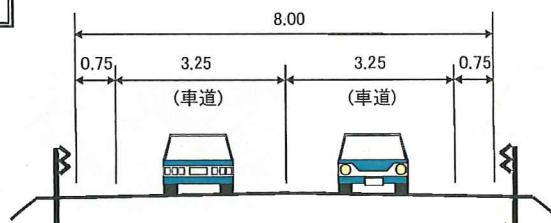


※構造物名は仮称

事業概要

- ◆起終点：下呂市金山町乙原げろしかなやまちょうおっぱら～下呂市保井戸げろしほいど
- ◆全体延長：5,410m
- ◆総事業費：約239億円
- ◆事業着手：平成9年度
- ◆完成予定：平成26年度
- ◆幅員：車道 3.25m×2車線

標準横断図



4

事業の目的

活力

物流・観光、地域経済の持続的発展の基礎となる道路整備

県土1700km骨格幹線ネットワーク構想の推進

地域間の観光交流や産業振興の推進

安全・安心

災害に強い県土づくりの根幹となる道路整備

地域の生活を支え、人に優しい安全で快適なまちづくりを支える道路整備

災害時に有効に機能するネットワークの確保

線形不良箇所の解消による円滑な交通の確保

事業の目的①

◆地域間の観光交流や産業振興の推進

- 金山下呂道路の整備により、郡上八幡ICから下呂温泉など下呂市内の観光・レジャー施設へのアクセスが向上し、観光客の増加や関連産業の活性化が期待できる



■年間観光入込客数【※1】

下呂温泉	: 118万人
下呂温泉合掌村	: 15万人

【※1】岐阜県観光レクリエーション動態調査(H22)



下呂温泉



下呂温泉合掌村

6

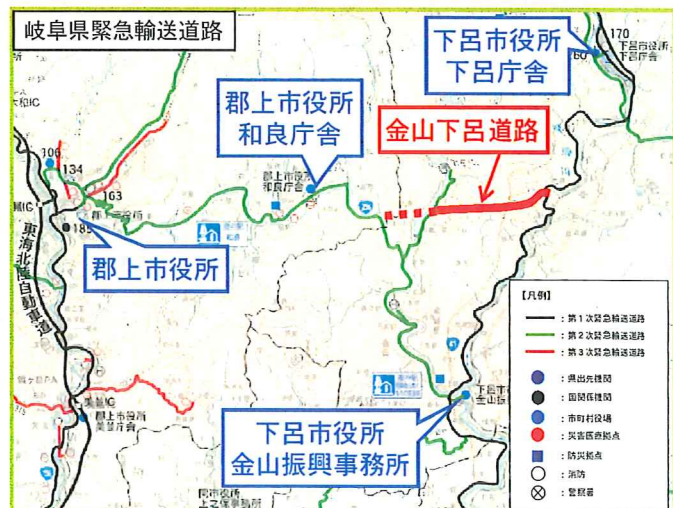
事業の目的②

◆災害時に有効に機能するネットワークの確保

- 国道256号は第2次緊急輸送道路に指定
- 当該区間は、郡上市役所、郡上市和良庁舎、下呂市役所下呂庁舎、下呂市金山振興事務所を接続する経路
- 第1次緊急輸送道路である国道41号の迂回路としても機能



- 災害時の緊急活動を支援する道路として金山下呂道路を整備

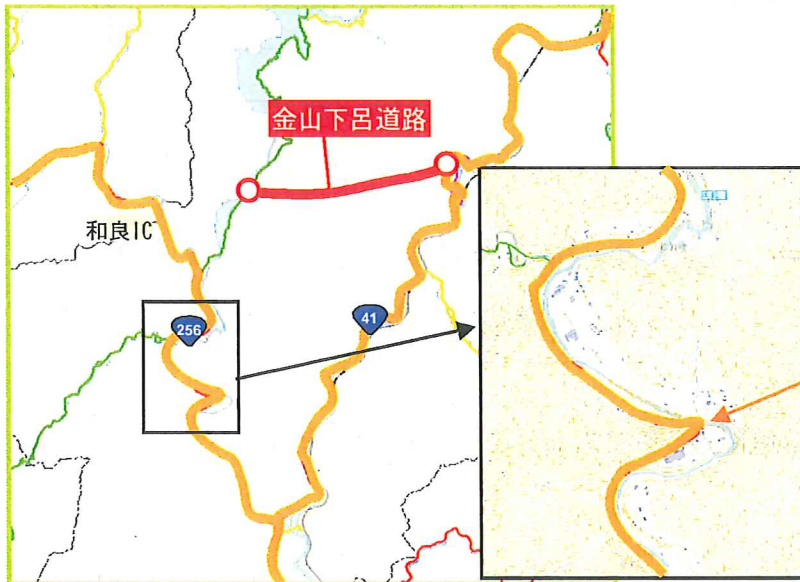


7

事業の目的③

◆線形不良箇所の解消による円滑な交通の確保

- 線形不良箇所があり危険
- 金山下呂道路の整備により、走行性・安全性が向上



現道状況
(線形不良箇所)



8

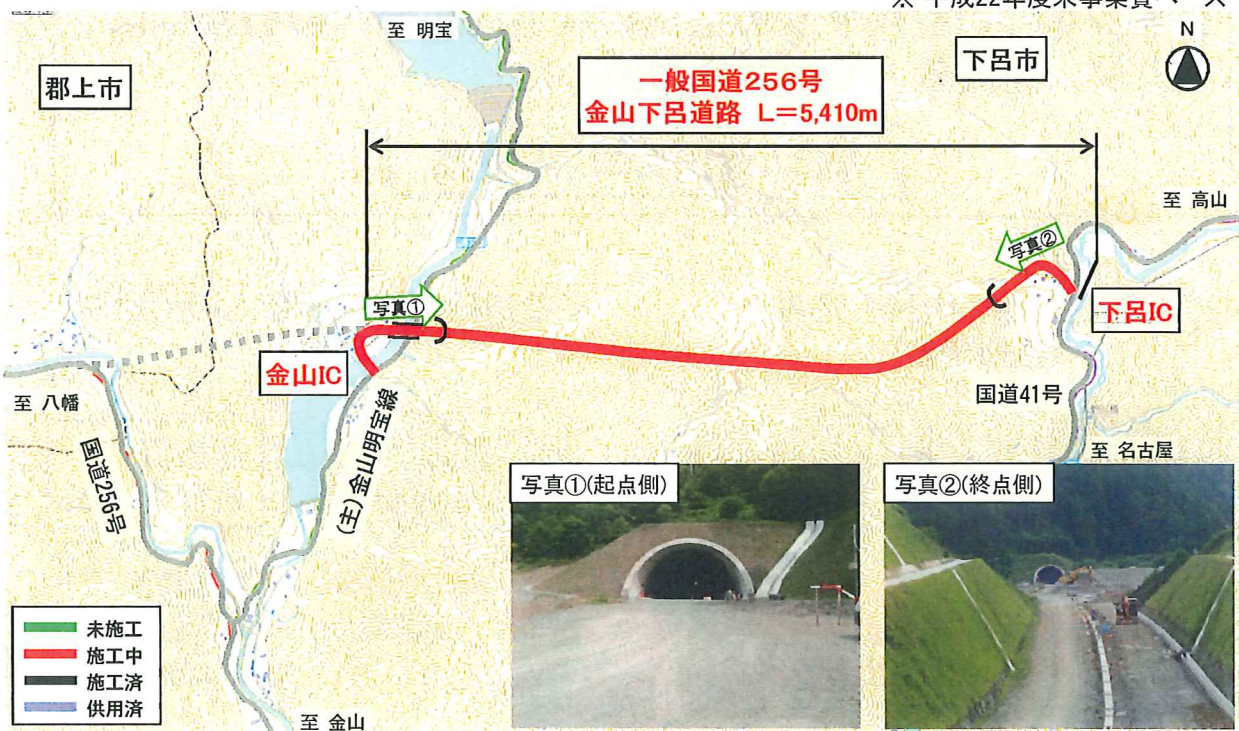
進捗状況

全体進捗率 89%※

用地補償進捗率 95%※

工事進捗率 87%※

※ 平成22年度末事業費ベース



費用対効果分析

事業の効果

- 走行時間短縮便益 …… 効果全体の約 83%
- 走行経費減少便益 …… 効果全体の約 12%
- 交通事故減少便益 …… 効果全体の約 5%

投資的效果率

$$\frac{\text{総便益 (B)}}{\text{総費用 (C)}} = \frac{1.0 \text{ (全体)}}{14.2 \text{ (残事業)}}$$

前回再評価時 (H18年度)
 1.5 (全体)
 3.8 (残事業)

※費用便益分析マニュアル（国土交通省H20.11）に基づき算出

10

コスト縮減の取り組み

◆残土処分方法の変更

■ トンネルの掘削ずりの益田砂利協同組合への引渡しにより、運搬費・処理費を削減した

約6.5億円のコスト縮減

<残土処分場への持ち込み>
(当初予定)



<益田砂利協同組合への引渡し>



自然環境への配慮

◆絶滅危惧種の移植

- 環境省絶滅危惧ⅠB類および岐阜県絶滅危惧Ⅰ類に指定されている**クラガリシダ**を移植した
- その後、モニタリング調査を実施して活着を確認した

移植直後の状況



移植3年後の状況



モニタリング調査にて活着を確認

12

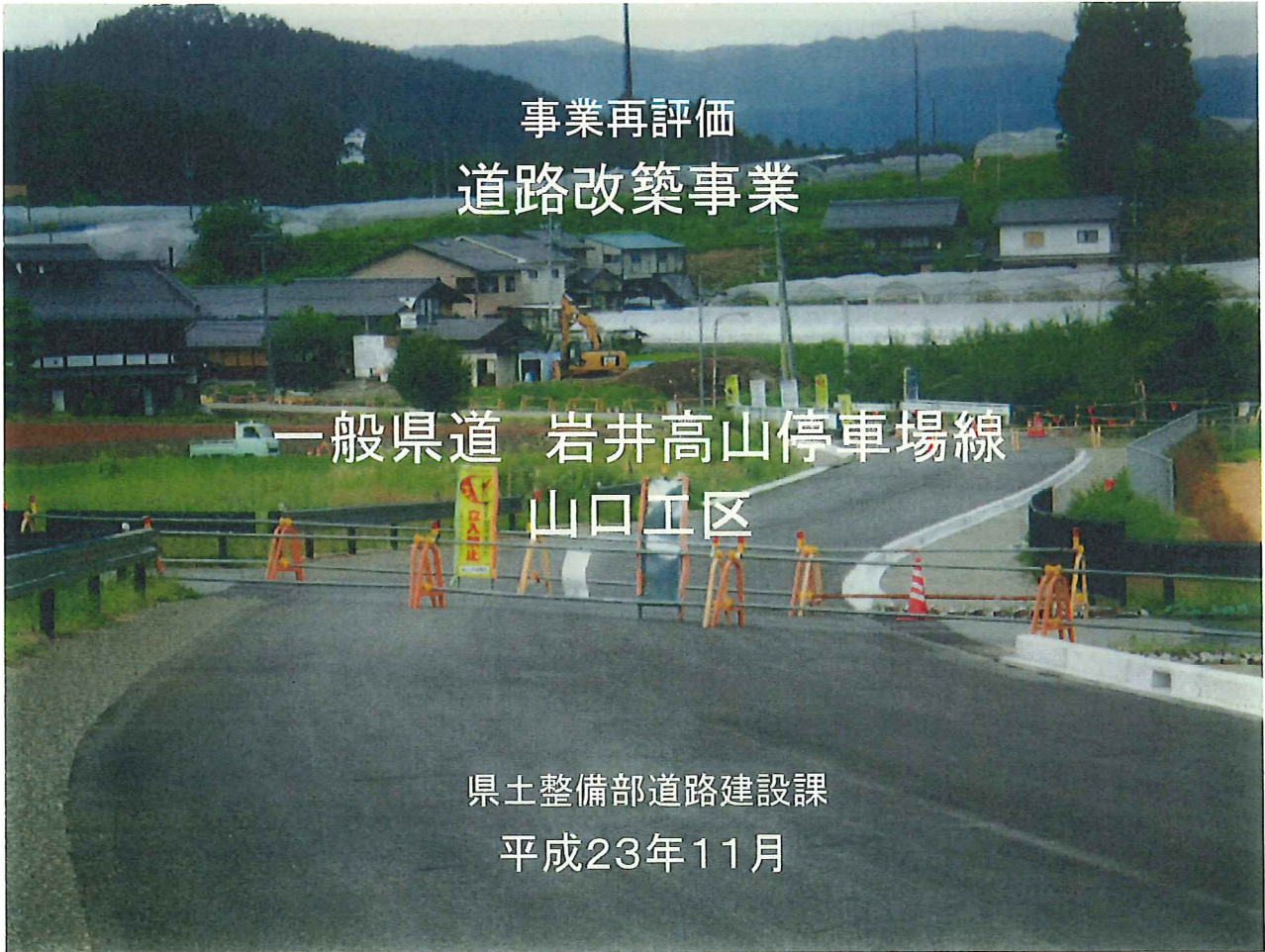
今後の方針

○金山下呂道路の完成は、安全で円滑な交通を確保し、当地域の発展に大きく寄与する。

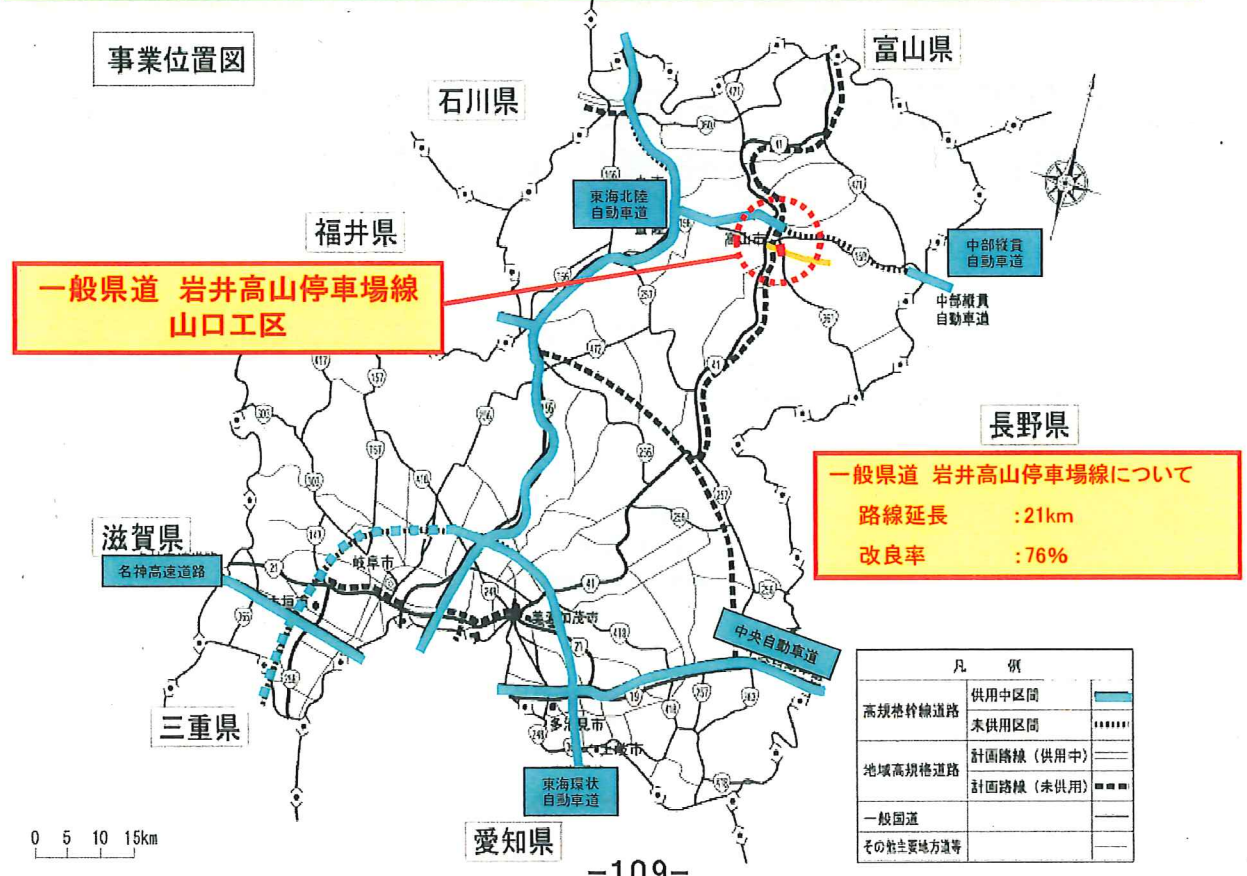
○地元住民および関係市町から事業の継続、早期完成の強い要望がある。



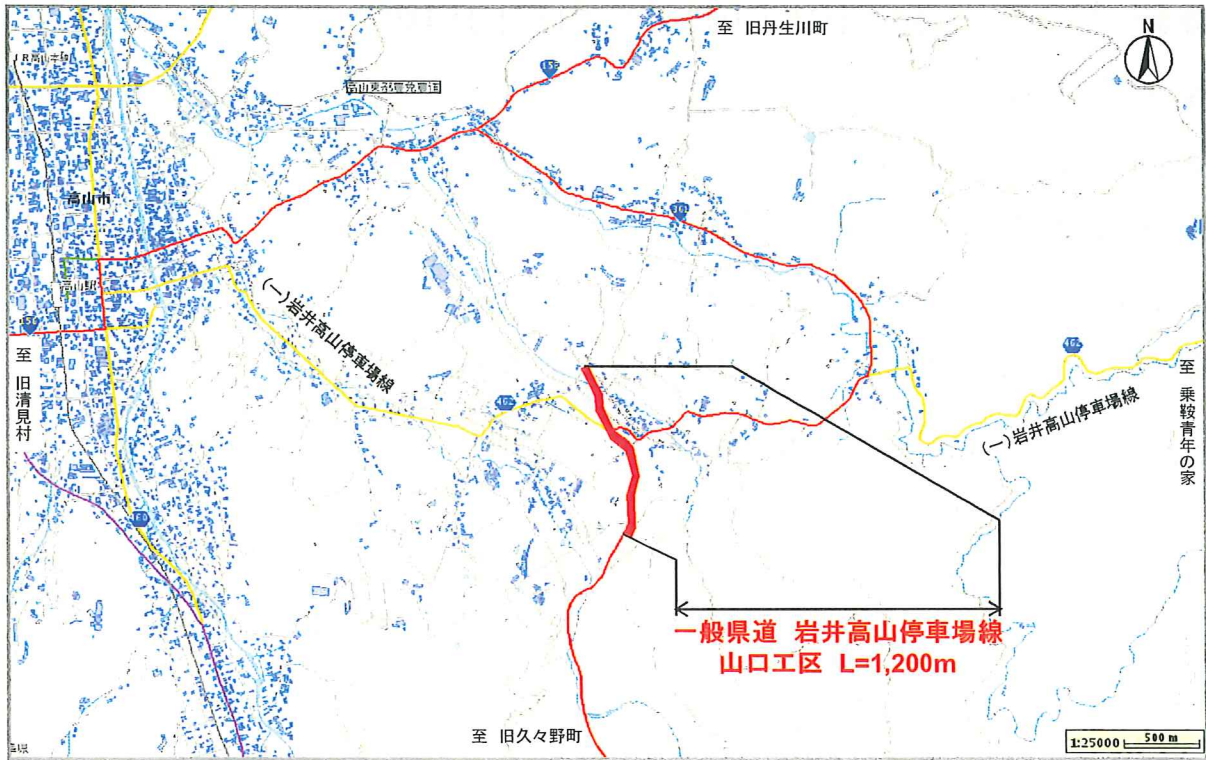
**＝供用に向け、更なるコスト縮減
に努め、事業継続＝**



位置図 ①

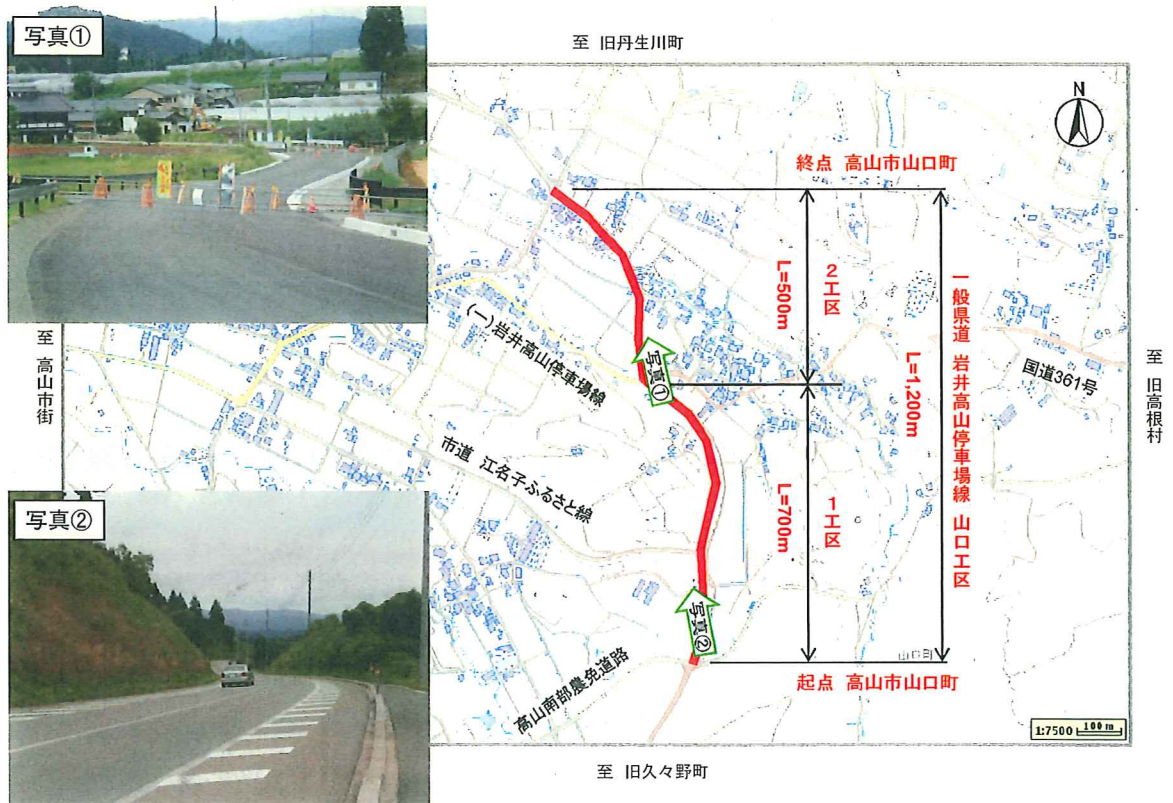


位置図②



2

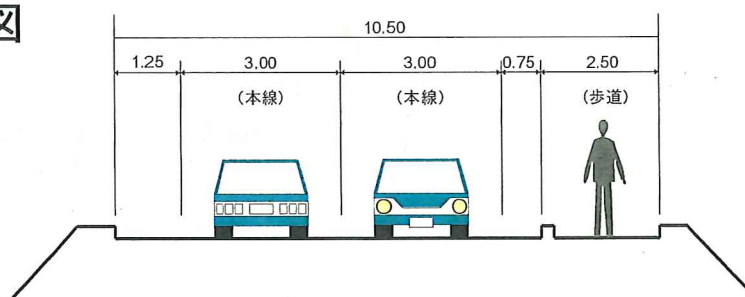
位置図③



事業概要

- ◆起終点：たかやましまぐちまち 高山市山口町～たかやましまぐちまち 高山市山口町
- ◆全体延長：1,200m
- ◆総事業費：約15億円
- ◆事業着手：平成15年度
- ◆完成予定：平成25年度
- ◆幅員：車道 3.00m×2車線
：歩道 2.50m (片側)

標準横断図



4

事業の目的

活力

物流・観光、地域経済の持続的発展の基礎となる道路整備

合併前の高山市と周辺町村との連携強化

安全・安心

災害に強い県土づくりの根幹となる道路整備

地域の生活を支え、人に優しい安全で快適なまちづくりを支える道路整備

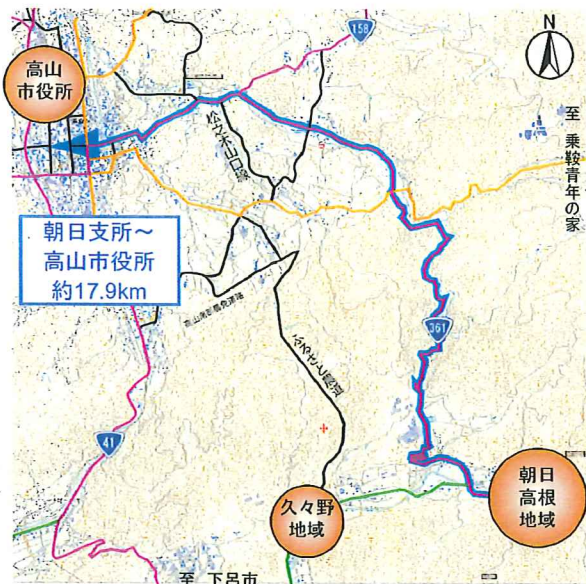
安全で快適な歩行空間の確保

事業の目的①

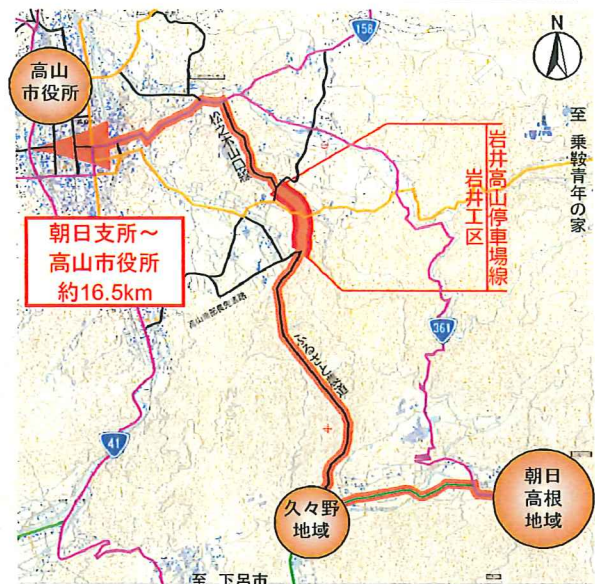
◆合併前の高山市と周辺町村との連携強化

- 平成17年2月に周辺9町村と合併し新高山市が誕生
- 旧朝日村、旧高根村地域等と旧高山市地域との連携の強化

合併以前(岩井高山停車場線未整備)の道路網



合併後(岩井高山停車場線一部供用)の道路網

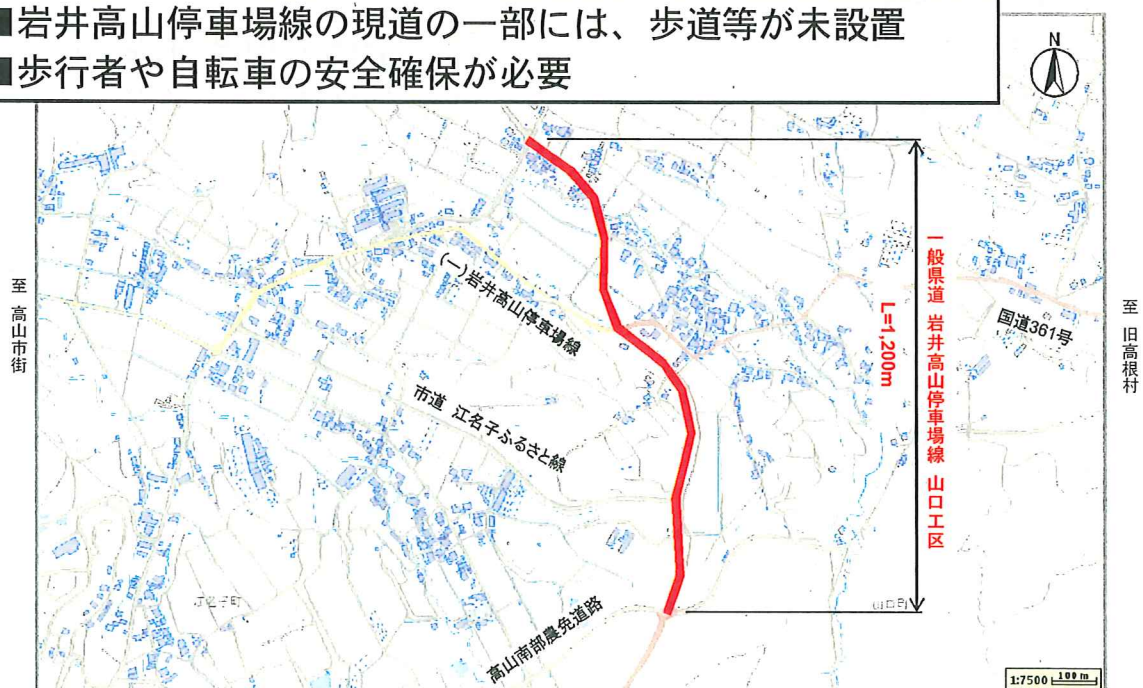


6

事業の目的②

◆安全で快適な歩行空間の確保

- 岩井高山停車場線の現道の一部には、歩道等が未設置
- 歩行者や自転車の安全確保が必要



至 旧久々野町

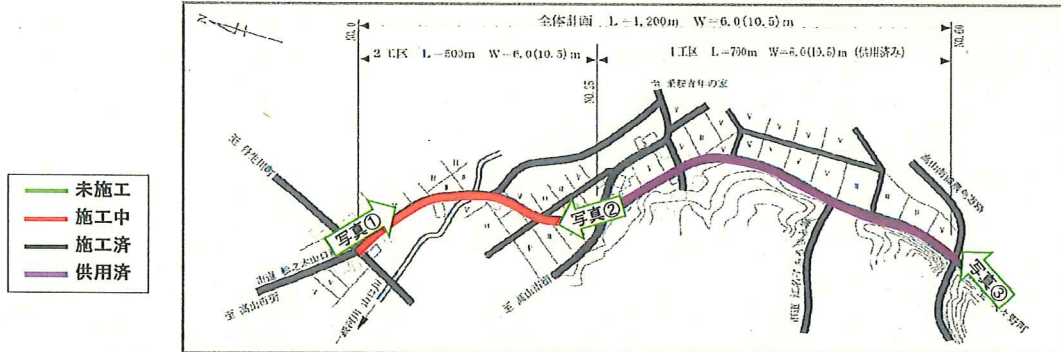
進捗状況

全体進捗率 89% ※

用地補償進捗率 93% ※

※ 平成22年度末事業費ベース

工事進捗率 86% ※



写真①(終点側)



写真②



写真③(起点部)



8

費用対効果分析

事業の効果

- 走行時間短縮便益 効果全体の約 **89%**
- 走行経費減少便益 効果全体の約 **8%**
- 交通事故減少便益 効果全体の約 **3%**

投資的效果率

$$\frac{\text{総便益 (B)}}{\text{総費用 (C)}} = \begin{matrix} 1.7 \text{ (全体)} \\ 2.7 \text{ (残事業)} \end{matrix}$$

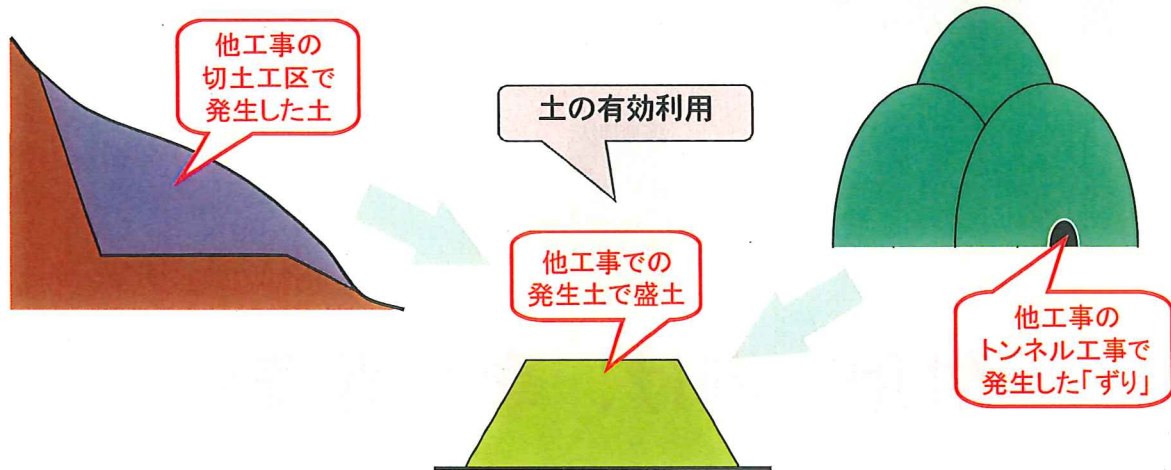
※費用便益分析マニュアル(H20.11 国土交通省)に基づき算出

コスト削減の取り組み

◆盛土材の有効利用

■他工事で発生したトンネルずりや切土による発生土を工程調整等により事業区間内の盛土部に有効利用した

約0.3億円のコスト削減



10

自然環境への配慮

◆法面の緑化

■現場内で発生した木材をチップ化し、基材吹付材料として利用し法面の緑化を実施した



切土法面の緑化状況

今後の方針

- 岩井高山停車場線の整備は、安全で円滑な交通を確保し、合併前の高山市と周辺町村との連携強化に大きく寄与する。
- 地元住民および関係市町から事業の継続、早期完成の強い要望がある。



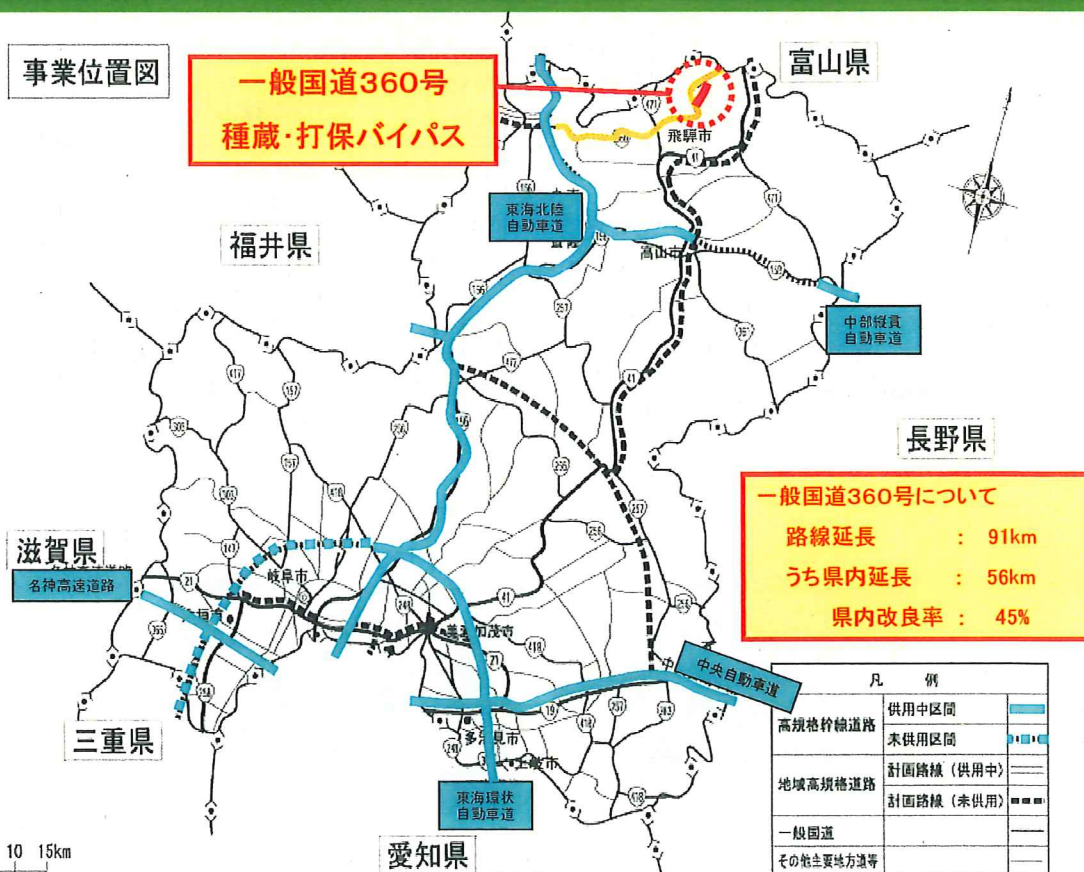
= 供用に向け、事業継続 =

事業再々評価
道路改築事業

一般国道360号
種蔵・打保バイパス

県土整備部道路建設課
平成23年11月

位置図①



位置図②



2

位置図③



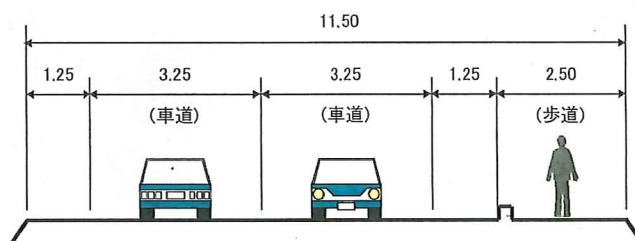
※構造物名は仮称

3

事業概要

- ◆起終点：飛騨市宮川町祢宜ヶ沢上～飛騨市宮川町巢之内
- ◆全体延長：7,550m
- ◆総事業費：約185億円
- ◆事業着手：平成9年度
- ◆完成予定：平成27年度以降
- ◆幅員：車道 3.25m×2車線
歩道 2.50m (片側)

標準横断面図



4

事業の目的

活力

物流・観光、地域経済の持続的発展の基礎となる道路整備

県土1700km骨格幹線ネットワーク構想の推進

隣接県との観光交流や産業振興の推進

安全・安心

災害に強い県土づくりの根幹となる道路整備

地域の生活を支え、人に優しい安全で快適なまちづくりを支える道路整備

災害時に有効に機能するネットワークの確保

雨量規制区間の解消

隘路・線形不良箇所の解消による円滑な交通の確保

事業の目的①

◆隣接県との観光交流や産業振興の推進

- 種蔵・打保バイパスの整備により、飛騨まんが王国など沿線の観光・レジャー施設へのアクセスが向上し、観光客の増加が期待できる
- 国道41号の代替ルートとしての機能確保により、富山県と飛騨圏域が安定的に結ばれ、観光交流や産業の活性化が期待できる



■年間観光入込客数【※1】

古い町並 (高山) : 244.8万人【※1】
 高山祭 : 31.7万人【※1】
 飛騨まんが王国 : 2.4万人【※2】

【※1】岐阜県観光レクリエーション動態調査(H22)
 【※2】飛騨市統計書(H22)



高山祭



飛騨まんが王国

6

事業の目的②

◆災害時に有効に機能するネットワークの確保

- 国道360号は第3次緊急輸送道路に指定
- 当該区間は、防災拠点(ヘリポート)と飛騨市北部や富山方面を接続する経路



- 災害時の緊急活動を支援する道路として種蔵・打保バイパスを整備



事業の目的③

◆雨量規制区間の解消

- 1年に1回以上の割合で異常気象等による通行止が発生
- 種蔵・打保バイパスの整備により、雨量規制区間が解消され、常時通行可能
- 異常気象等により国道41号が通行止の場合の迂回路として機能



【雨量規制区間】
時間雨量30mm以上、
連続雨量100mm以上で通行止

8

事業の目的④

◆隘路・線形不良箇所への解消による円滑な交通の確保

- 幅員狭小・線形不良区間が多く、危険
- 種蔵・打保バイパスの整備により、走行性・安全性が向上



現道状況
(幅員狭小部)



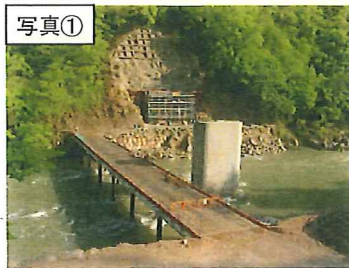
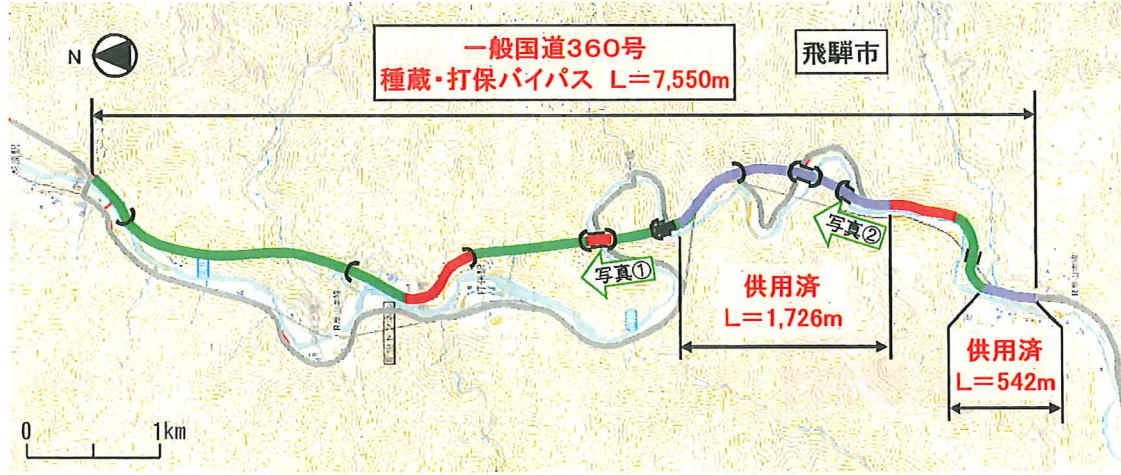
進捗状況

全体進捗率 47%*

用地補償進捗率 45%*

工事進捗率 47%*

※平成22年度末事業費ベース



10

費用対効果分析

事業の効果

- 走行時間短縮便益 効果全体の約 86%
- 走行経費減少便益 効果全体の約 13%
- 交通事故減少便益 効果全体の約 1%

投資的效果率

$$\frac{\text{総便益 (B)}}{\text{総費用 (C)}} = \begin{matrix} 1.1 \text{ (全体)} \\ 1.9 \text{ (残事業)} \end{matrix}$$

前回再評価時
(H18年度)

1.5(全体)

2.4(残事業)

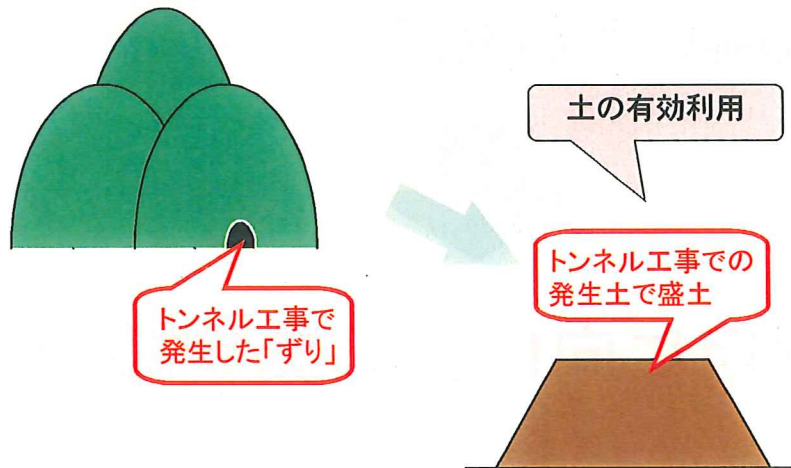
※費用便益分析マニュアル(国土交通省H20.11)に基づき算出

コスト削減の取り組み

◆トンネルずりの有効利用

- トンネル工事で発生したトンネルずり(約17万 m^3)を他工事の盛土に流用することにより、処理費を削減する

約5.0億円のコスト削減

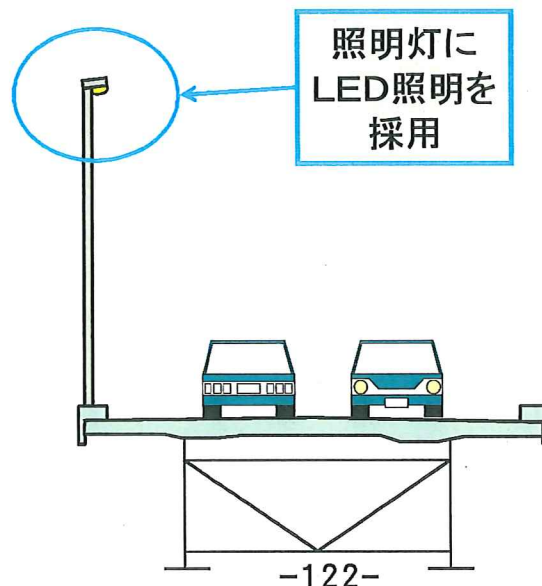


12

自然環境への配慮

◆LED照明の採用による環境への配慮

- 長寿命かつ低消費電力であるLED照明を橋梁部の照明灯に採用し、蛍光ランプを用いた場合に比べ環境負荷を軽減する



13

今後の方針

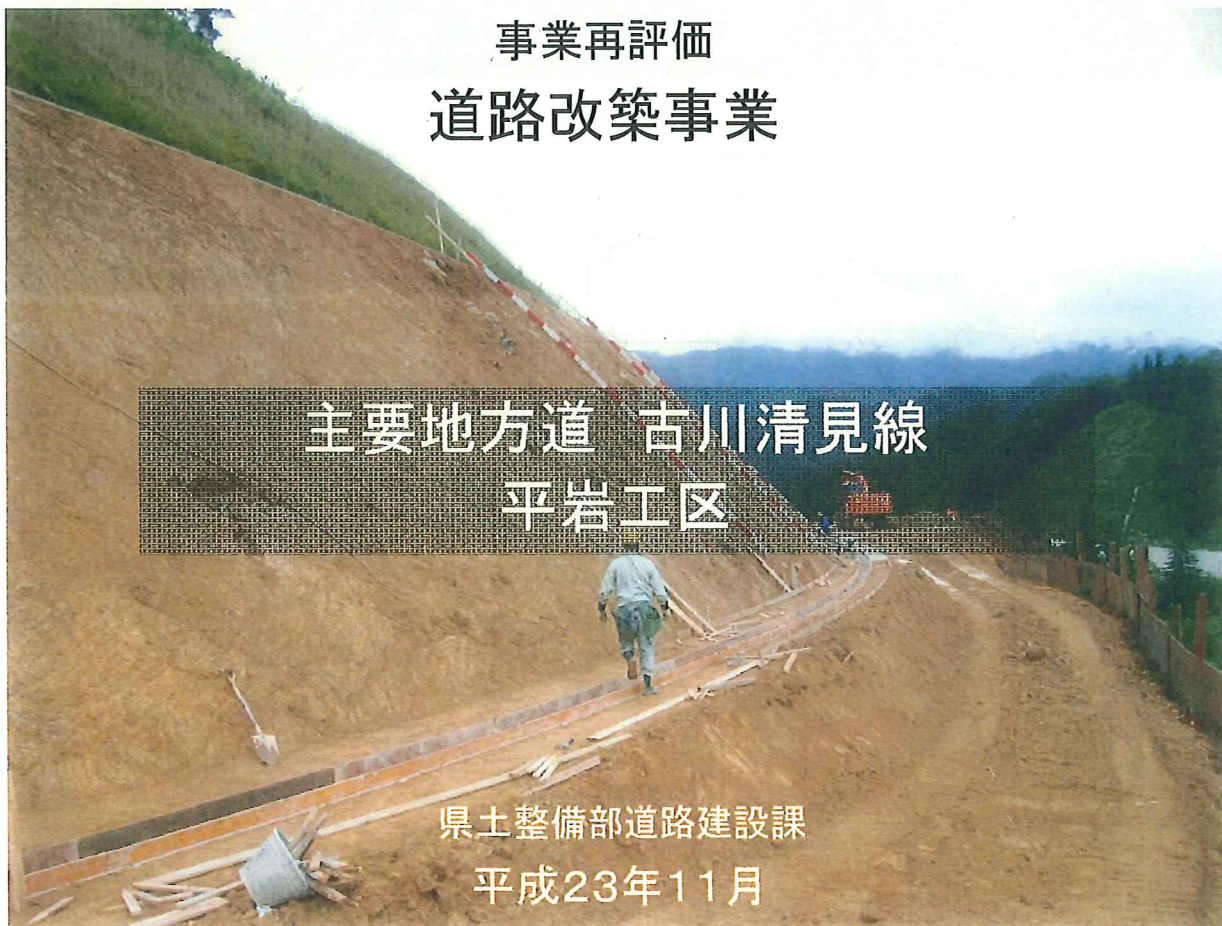
○種蔵・打保バイパスの完成は、安全で円滑な交通を確保し、当地域の発展に大きく寄与する。

○地元住民および関係市町から事業の継続、早期完成の強い要望がある。



＝供用に向け、事業継続＝

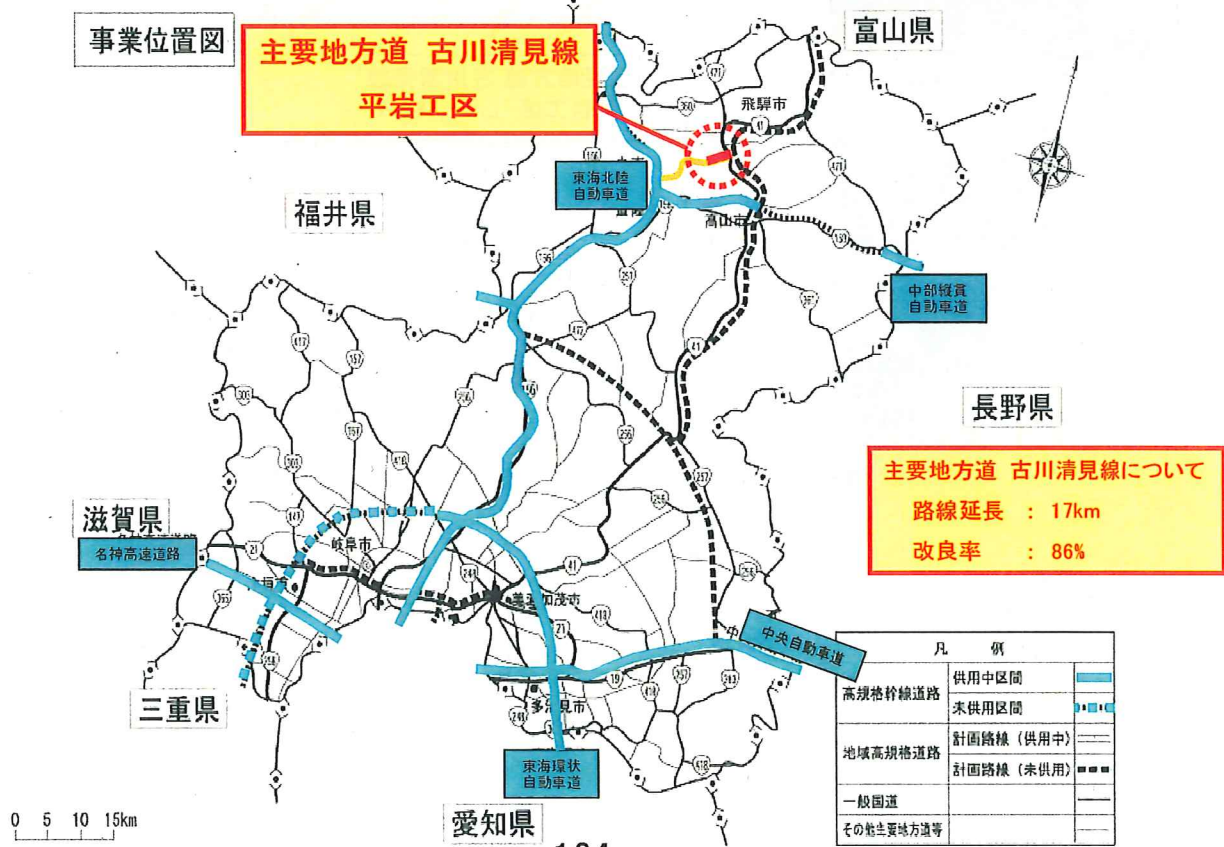
事業再評価 道路改築事業



主要地方道 古川清見線
平岩工区

県土整備部道路建設課
平成23年11月

位置図①



位置図②



2

位置図③

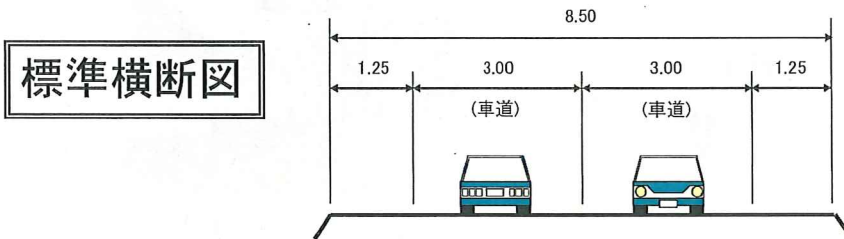


※構造物名は仮称

3

事業概要

- ◆起終点：飛騨市古川町高野ひだしふるかわちようたかの～飛騨市古川町平岩ひだしふるかわちようひらいわ
- ◆全体延長：2,760m
- ◆総事業費：約46億円
- ◆事業着手：平成7年度
- ◆完成予定：平成27年度以降
- ◆幅員：車道 3.00m×2車線



4

事業の目的

活力

物流・観光、地域経済の持続的発展の基礎となる道路整備

地域間の観光交流や産業振興の推進

安全・安心

災害に強い県土づくりの根幹となる道路整備

地域の生活を支え、人に優しい安全で快適なまちづくりを支える道路整備

災害時に有効に機能するネットワークの確保

隘路・線形不良箇所の解消による円滑な交通の確保

事業の目的①

◆地域間の観光交流や産業振興の推進

- 平岩工区の整備により、飛騨清見ICから飛騨市街地へのアクセスが向上し、飛騨市内への観光客の増加や関連産業の活性化が期待できる



- 年間観光入込客数【※1】
古い町並 (古川) : 24.5万人
古川祭 : 4.5万人

【※1】岐阜県観光レクリエーション動態調査(H22)



古い町並 (古川)

6

事業の目的②

◆災害時に有効に機能するネットワークの確保

- 古川清見線は第2次緊急輸送道路に指定
- 当該区間は、防災拠点である道の駅飛騨古川いぶしと飛騨市役所を接続する経路



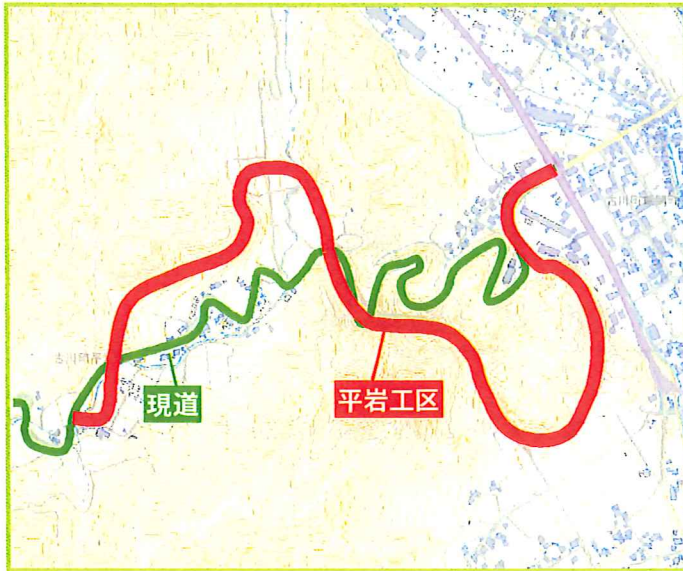
- 災害時の緊急活動を支援する道路として平岩工区を整備



事業の目的③

◆隘路・線形不良箇所への解消による円滑な交通の確保

- 線形不良・幅員狭小・急勾配区間が多く、危険
- 平岩工区の整備により、走行性・安全性が向上



現道状況
(線形不良・急勾配区間)



(幅員狭小区間)



8

進捗状況

全体進捗率 71%*

用地補償進捗率 100%*

工事進捗率 67%*

※平成22年度末事業費ベース



9

費用対効果分析

事業の効果

- 走行時間短縮便益 …… 効果全体の約 85%
- 走行経費減少便益 …… 効果全体の約 13%
- 交通事故減少便益 …… 効果全体の約 2%

投資的效果率

$$\frac{\text{総便益 (B)}}{\text{総費用 (C)}} = \begin{matrix} 1.1 & (\text{全体}) \\ 2.3 & (\text{残事業}) \end{matrix}$$

※費用便益分析マニュアル（国土交通省H20.11）に基づき算出

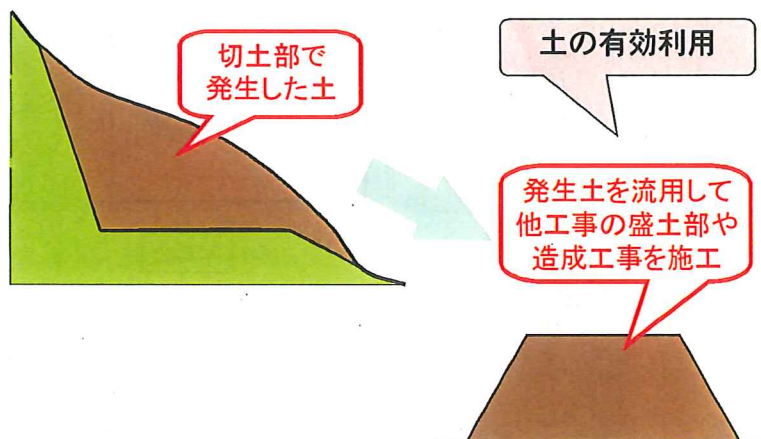
10

コスト縮減の取り組み

◆盛土材の有効利用

- 切土による発生土（約10万m³）を他工事の盛土や造成工事に流用することにより、処理費を削減する

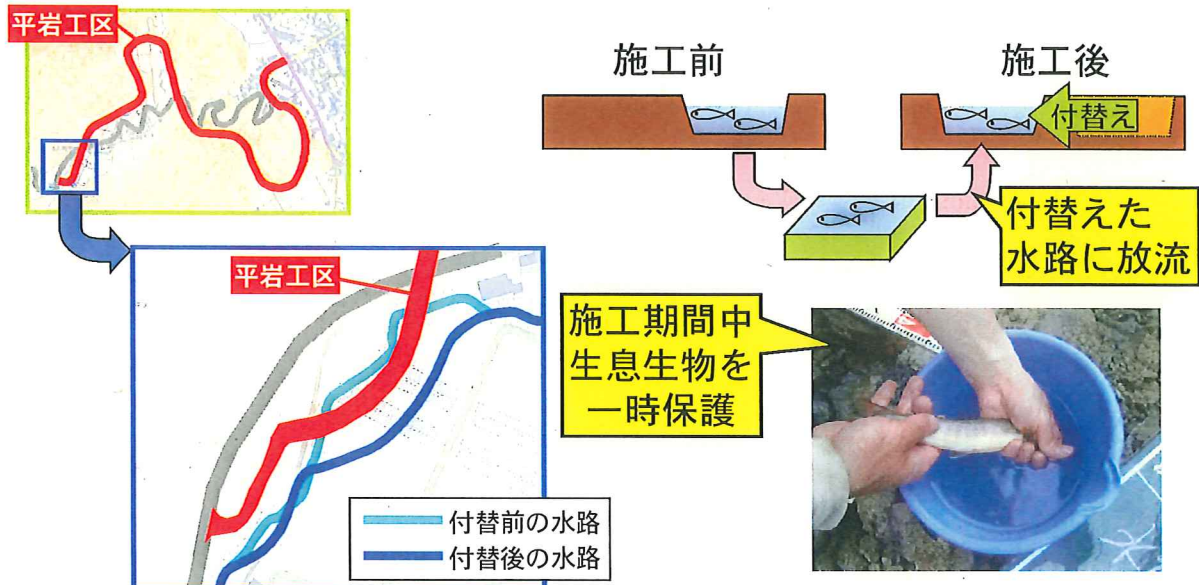
約2.0億円のコスト縮減



自然環境への配慮

◆生息生物への対応

- 水路付替えの際にイワナ等の生息生物を保護した
- 施工完了後、保護した生物を再び水路に放流した



12.

今後の方針

○(主)古川清見線 平岩工区の完成は、安全で円滑な交通を確保し、当地域の発展に大きく寄与する。

○地元住民および関係市町から事業の継続、早期完成の強い要望がある。



= 供用に向け、事業継続 =